



特定非営利活動法人 (NPO法人) 全国学校軽音楽部協会

中学校・高等学校軽音楽部

顧問通信

2020年7月号 VOL.30

※本誌に記載されている記事の内容や数字などの全部、または一部を無断で複製、引用することを禁じます。利用する際は当協会までご一報ください。



DiGiRECO.JR 2020年7月号

新装
創刊

適切な備品購入のすゝめ 軽音楽部の標準機材 2020

iPhone できる
高音質／高解像度の映像撮影

「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」と軽音楽部の接点
軽音楽部の大会における統一審査基準 (案)

VOICE

池田誠司

長野県高等学校文化連盟 理事／軽音楽専門部 理事長
長野県上田染谷丘高等学校 軽音・フォーク班 顧問

長野いつき

音楽家・日本部活動学会理事

鈴木雅宏

専門学校国際新堀芸術学院 講師



全国学校軽音楽部協会は 「部活動は教育の一環である」の理念のもと 高等学校軽音楽部の活動を応援しています。

現在、全国で軽音楽系の部活動が活発に行われ、多くの生徒が軽音楽を通して様々なことを学んでいます。それは、軽音楽部の「自主性」や「責任感」の伴う活動が学習意欲の向上につながり、「コミュニケーション」「チームワーク」「クリエイティビティー」といった社会で必要とされるスキルを育てることができる部活動だと認知されてきたからだと思います。しかし、その一方で、他の部活動に比べるとまだその運営方法や指導方法などが確立しておらず、学校単位、各都道府県の高等学校文化連盟軽音楽専門部や軽音楽連盟単位での活動にとどまっているのが現状です。また、大会における審査基準やレギュレーション、校外活動の範囲、部活動とバンド活動との違いなどに統一された定義がないことが軽音楽部の発展の妨げになっていると思います。

今後、軽音楽部の社会的な認知と発展が進み、生徒が部活動として正しく活動できる状態にするには、文化庁をはじめ、各都道府県の高文連専門部や連盟、顧問の先生方と協力しながら、全国規模の交流ができる場を作ることや軽音楽部員への直接的な支援、及び指導が必要だと思います。

私たちは、このような支援活動を推進するには、公平性と中立性を保ちながら、情報公開を通じて広く一般の方の賛同を得ることができる特定非営利活動法人としての活動が望ましいと考え、本協会を設立しました。これまでも、情報誌の発行、大会や合同演奏会の運営支援、大会プログラムの発行、生徒や顧問への各種クリニックや講習会の開催、軽音楽連盟発足の支援などを行ってきました。今後も不特定、かつ多数の公益に寄与しながら、軽音楽を通して青少年の健全な育成を目指していきます。

特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会
理事長 三谷佳之



特定非営利活動法人（NPO法人）全国学校軽音楽部協会

2020年7月号 VOL.30

中学校・高等学校軽音楽部

顧問通信

■中学校・高等学校軽音楽部 顧問通信 VOL.30
■JUL・2020（第5巻4号通巻30号）
■発行日：令和2年6月19日（金）
■監修・発行：特定非営利活動法人（NPO法人）
全国学校軽音楽部協会
〒224-0003 横浜市中区中川中央1-37-6-405
TEL：045-913-0901 FAX：045-913-1900
E-Mail：info@keionkyo.org
■企画・編集：株式会社ミュージックネットワーク

※本誌に記載されている記事の内容や数字などの全部、または一部を無断で複製、引用することを禁じます。利用する際は当協会までご一報ください。

編集長の言葉 ...4

全国高等学校軽音楽連盟 連絡先一覧 ...5

配布校リスト ...6

iPhoneでできる高音質／高解像度の映像撮影 ...33

「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」
と軽音楽部の接点 ...35

軽音楽部の大会における統一審査基準（案）...37

知っておくべき 軽音楽部員の常識 ～ギタリスト編～...41

適切な備品購入のすゝめ

軽音楽部の標準機材 2020 ...20

VOICE

長野県高等学校文化連盟軽音楽専門部

～設立から現在、今後の課題～ ...14

長野県高等学校文化連盟 理事／軽音楽専門部 理事長
長野県上田染谷丘高等学校 軽音・フォーク班顧問 池田誠司

学校教育活動と軽音楽部

～地位向上を目指して～ ...16

音楽家・日本部活動学会 理事 長野いつき

「音楽による人材育成」の取り組み ...18

専門学校国際新堀芸術学院 講師 鈴木雅宏



ニューノーマルの始まり？

新型コロナウイルスの出現は社会や経済を大きく変えてしまい、もう以前の状態には戻れません。小さな話ですが、私自身、小銭や紙幣に触れる機会を減らそうと思い、電子決済に変えました…笑。以来、小銭入れを持たなくなり、財布には緊急時の紙幣とクレジットカードが入っているだけです。新型コロナウイルスのワクチンが開発されるまでは先が見えず、アフター・コロナと言える時期が来たら、病気の次には経済の心配が予測されます。

一般企業にとって、リモートワークは大きな一石を投じました。自宅で仕事をこなし、グループウェアで進捗状況を把握し、得意先とはリモート会議で済ませられるようになると、満員電車で揺られる通勤は何だったのか、都心に近い高級マンションに住む意味は何だったのか、という話になります…苦笑。学校の現場でも全国一斉休校に始まり、長期の休校は学校の在り方にも大きな転機となりました。授業はリモートで展開しますが、部活動はどうなのか。果たして「あっても良い」というレベルの部活動なのか、ないと困ると言われる部活動なのか。

軽音楽部に話を転じると、夏に予定されていた軽音楽コンテストや大会は民間、公式を含め、ほとんどが中止となりました。来年の挑戦が残されていない3年生は部活動に打ち込んできた気持ちを昇華する場がなくなり、落胆していると聞きます。そこで、例年、大会プログラムを制作している地域においては、部活動に打ち込んだ証になるような「思い出プログラム～In Memory Of 軽音楽部 2020～」の制作

を検討しています。スポンサーと協議の上、多くの地域で実現させたいと思います。

さて、先月号で告知した通り、今月号から「顧問通信」はPDF形式による提供になり、それに伴い、誌面はカラー仕様になっております。今後も顧問の先生方を支援するために、いろいろと知恵を絞ってこうと考えています。その1つとして、音楽専門学校と協力し、特新入部員のための動画配信を予定しております。本来は上級生が下級生に技術指導をするべきだ…というのが当協会のポリシーですが、そうは言っても基準になるようなお手本があると助かるのではないかと…ということで、現在制作中です。また、オンライン会議ツール「Zoom」による顧問交流会も開催します。過日、実験的に県を跨いだ顧問の先生方に集まってもらい、交流会を開きました。これからは講習会や各校との交流会もオンラインで簡単に実現できるようになりそうですね。

最後に…。顧問の先生方にも当協会へのご寄付をお願いしたいと思います。1,000円から受け付けております。以下のURLやQRコードから簡単に送金できます。既にご寄付をいただいた先生方には、この場でも御礼申し上げます。とても励みになりました。ありがとうございました。

では、また次号で…。



<https://keionkyo.org/sanjiyo/>

特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会
理事長 三谷佳之
mitani@keionkyo.org
Twitter @yoshiyukimitani



三谷佳之 YOSHIYUKI MITANI
BLOOD SABBATH (www.bloodsabbath.com)

小学生で電気に興味を持つ。中学生でプリティッシュ・ロックに目覚め、将来はイギリスに住む！と妄想。英語は必須と直感。エレキ・ギターを弾きつつ、ジブセサイザーに興味を持ち、楽器より電気に傾倒。国立奈良工業高等専門学校電気工学科に進学。ロックバンドを組むが長続きせず。在学中、興味の対象は広告宣伝や販売促進、マーケティングに移る。某電子楽器メーカーに就職後、最新テクノロジーだった通信事業に興味を持ち、9年間の勤務を経て、独立。ミュージックネットワークを設立。インターネットのない時代から音楽と通信ネットワークの分野で数々の日本初のビジネスを立ち上げる。2000年の少し前、インターネット業界では当たり前の「コンテンツは無料」というコンセプトを雑誌に応用した「無料雑誌」を思いつき、創刊。2013年、高校の軽音楽部向けの無料雑誌「DIGIRECO.JR」を創刊。2018年、大学の軽音楽サークル向けの無料雑誌「DIGIRECO.SR」を創刊。同年、特定非営利活動法人「全国学校軽音楽部協会」を設立。

音楽面では約10年前にバンドへの興味が再燃。ハードロック系イベントを主催する。その後、主催するよりも出演の方が楽しそう…ということで方向転換。高専生時代から好きだったヘヴィメタルの元祖「BLACK SABBATH」のトリビュート・バンド「BLOOD SABBATH」を結成。年間12回以上のライブを展開。編集長の立場を利用してBLACK SABBATHのメンバーに会うなど…やりたい放題の公私混同。2013年5月、直訳ロッカーの王様と日本語でBLACK SABBATHの名曲を演奏したアルバム「黒い安息日伝説」を発売。好調な売れ行きに気を良くして、現在、第2弾を計画中。2015年5月、BLACK SABBATHのギタリストであるトニー・アイオミのトリビュート・アルバムに参加。世界デビューを果たす。

※ 会社のホームページで設立以来の活動を紹介しています



#がんばろう軽音楽部

高等学校文化連盟軽音楽専門部／高等学校軽音楽連盟 連絡先一覧

これは各都道府県の高等学校文化連盟軽音楽専門部、および高等学校軽音楽連盟の連絡先です。各組織に参加することで公式大会に参加したり、他校の顧問の先生と交流する機会が増えます。下記に掲載されていない県の高等学校の軽音楽系部活動の顧問の先生で、県をまとめて組織化しようと思われる方は全国学校軽音楽部協会（info@keionkyo.org）までご一報ください。高等学校の軽音楽部の発展を目指して、頑張りましょう。

	都道府県	団体名	学校数	生徒数	連絡先
北海道	北海道	北海道高等学校文化連盟軽音楽専門部	44校 (45団体)	1,392名	【田澤英貴／委員長】北海道札幌厚別高等学校
	岩手県	岩手県高等学校文化連盟軽音楽専門部	21校	614名	【木村 健／専門部理事】岩手県立盛岡南高等学校
東北	宮城県	宮城県高等学校文化連盟軽音楽専門部	38校	約1,723名	【平澤和昭／軽音楽専門部理事】尚絅学院高等学校
	茨城県	茨城県高等学校軽音楽連盟	7校	269名	【高野陽輔／委員長】茨城県立竹園高等学校
関東	埼玉県	埼玉県高等学校軽音楽連盟	60校	約2,100名	【齋藤教雄／事務局長】埼玉県立浦和高等学校
	千葉県	千葉県高等学校軽音楽連盟	24校	約500名	【島 晴己子／委員長】東海大学付属浦安高等学校・中部
	東京都	東京都高等学校文化連盟軽音楽部門 東京都高等学校軽音楽連盟	126校	約7,000名	【佐々木弘人／委員長】成女高等学校
	神奈川県	神奈川県高等学校文化連盟軽音楽専門部会 神奈川県高等学校軽音楽連盟	80校	約4,000名	【橘 秀樹／委員長】神奈川県立弥栄高等学校
	長野県	長野県高等学校文化連盟軽音楽専門部	66校	2,123名	【金山幸信／事務局長】長野県野沢南高等学校
中部	静岡県	静岡県高等学校文化連盟軽音楽専門部	19校	931名	【小澤知彦／専門部長】静岡県立静岡西高等学校
	愛知県	愛知県高等学校軽音楽連盟	11校	450名	【中村弘之／委員長】名古屋経済大学市邨高等学校
	奈良県	奈良県高等学校軽音楽連盟	7校	350名	【渡邊敬久／事務局長】奈良育英中学校高等学校
近畿	滋賀県	滋賀県高等学校軽音楽部会	15校	約500名	【村田 良／代表幹事】滋賀県立大津清陵高等学校通信部
	京都府	京都府高等学校軽音楽連盟	17校	600名	【中川龍一／委員長】京都光華高等学校
	大阪府	大阪府高等学校芸術文化連盟軽音楽部会 高等学校軽音楽部連盟大阪	104校 (105団体)	約3,000名	【追田和哉／運営委員】大阪府立平野高等学校
	兵庫県	高等学校軽音楽部連盟兵庫	32校	1,406名	【岡崎宏省／連盟長】兵庫県立武庫荘総合高等学校
	和歌山県	和歌山県高等学校文化連盟軽音楽部会 和歌山県高等学校軽音楽連盟	9校	約340名	【横出加津彦／代表理事】和歌山県立粉河高等学校
	広島県	広島県高等学校文化連盟軽音楽専門部 広島県高等学校軽音楽連盟	24校	約1,000名	【井上伸明／委員長】広島県立五日市高等学校
中国	高知県	高知県高等学校文化連盟軽音楽専門部	20校	600名	【横田直祐／事務局長】高知県立窪川高等学校
九州・沖縄	福岡県	福岡県高等学校軽音楽連盟	18校	600名	【大谷伸弥／委員長・事務局長】福岡県立筑前高等学校
	熊本県	熊本県高等学校軽音楽連盟	14校	約250名	【森 宏之／理事長】熊本県立済々黌高等学校
	沖縄県	沖縄県高等学校文化連盟軽音楽専門部	43校	約430名	【波平貢司／委員長】沖縄県立球陽高等学校
		合計	799校	30,178名	

は専門部のある都道府県を意味します

2020年6月12日現在、敬称略



特定非常利活動法人 全国学校軽音楽部協会 TEL: 045-913-0901 / FAX: 045-913-1900

中学校・高等学校軽音楽部 顧問通信 VOL.30 | JUL・2021

4048	三鷹市	大成高等学校	ギター部	6860	横浜市	星陵高等学校	軽音楽部	4136	藤沢市	神奈川県立藤沢清流高等学校	軽音楽部	5163	浦安市	東海大学付属浦安高等学校	軽音楽部
4845	東京都	東京都立三鷹中等教育学校	音楽部・軽音楽部	6790	横浜市	横浜磯崎高等学校	軽音楽部	4138	藤沢市	神奈川県立藤沢西高等学校	音楽部	5165	浦安市	東海大学付属浦安高等学校	軽音楽部
3993	三鷹市	法政大学高等学校	音楽部	4129	横浜市	神奈川県立白山高等学校	ギター部	4137	藤沢市	神奈川県立藤沢総合高等学校	軽音楽部	5168	我孫子市	我孫子二階堂高等学校	軽音楽部
4034	三鷹市	東京都立三鷹高等学校	軽音楽部	4085	横浜市	神奈川県立山崎丘高等学校	軽音楽部	6566	藤沢市	聖霊女子学院高等学校	軽音楽部	5166	我孫子市	千葉県立我孫子高等学校	軽音楽部同好会
4787	小田原市	小田原市立小田原高等学校	軽音楽部	4150	横浜市	横浜東高等学校	軽音楽部	4135	藤沢市	聖霊女子学院高等学校	軽音楽部	5167	我孫子市	千葉県立我孫子高等学校	軽音楽部
4861	小金井市	国際基督教大学高等学校	Rock部	6859	横浜市	神奈川県立鎌倉高等学校	フォークソング部	6896	藤沢市	藤沢学園藤沢高等学校	軽音楽部	5169	我孫子市	中央学院高等学校	軽音楽部
4858	小金井市	東京都立小金井北高等学校	フォークソング部	4115	横浜市	神奈川県立鎌倉高等学校	軽音楽部	4126	藤沢市	日本大学藤沢高等学校	器楽部	5170	鎌ヶ谷市	千葉県立鎌ヶ谷高等学校	軽音楽部
4860	小平市	東京都立多摩科学技術高等学校	軽音楽部	6829	横浜市	山手学院高等学校	軽音楽部	4075	南足柄市	神奈川県立足柄高等学校	軽音楽部	5171	鎌ヶ谷市	千葉県立鎌ヶ谷高等学校	軽音楽部
3989	小平市	錦城高等学校	音楽部	6776	横浜市	神奈川県立横浜東高等学校	軽音楽部	4132	平塚市	神奈川県立平塚工科高等学校	音楽部	5176	館山市	千葉県安房郡高等学校	ギター部
4015	小平市	東京都立小平高等学校	軽音楽部	4089	横浜市	神奈川県立小川高等学校	軽音楽部	6906	平塚市	神奈川県立平塚江南高等学校	軽音楽部	5174	館山市	千葉県安房郡高等学校	ギター部
3994	小平市	東京都立小平高等学校	軽音楽部	6859	横浜市	神奈川県立北相模高等学校	軽音楽部	4133	平塚市	神奈川県立平塚東高等学校	軽音楽部	5180	君津市	千葉県国際高等学校	軽音楽部
4805	小平市	東京都立小平高等学校	軽音楽部	4107	横浜市	秀英高等学校	軽音楽部	4134	平塚市	神奈川県立平塚東高等学校	軽音楽部	5182	君津市	千葉県国際高等学校	軽音楽部
4026	相模市	東京都立相模高等学校	軽音楽部	4147	横浜市	神奈川県立横浜緑蔭高等学校	軽音楽部	6908	平塚市	神奈川県立平塚農業高等学校	軽音楽部	5183	香取市	千葉県立佐原高等学校	軽音楽部
4784	新島村	東京都立新島高等学校	軽音楽部	6798	横浜市	神奈川県立横浜緑蔭高等学校	軽音楽部	4232	さいたま市	さいたま市浦和高等学校	音楽部	5186	香取市	千葉県立佐原高等学校	軽音楽部
4785	神津島村	東京都立神津島高等学校	軽音楽部	4110	横浜市	神奈川県立北相模高等学校	軽音楽部	4231	さいたま市	さいたま市大宮北高等学校	軽音楽部同好会	5187	佐倉市	千葉県立佐倉高等学校	軽音楽部
4121	清瀬市	東京都立清瀬高等学校	民族音楽部	9488	横浜市	桐蔭学園高等学校男子部	軽音楽部同好会	6659	さいたま市	浦和ルーラル学院高等学校	音楽部	5188	佐倉市	千葉県立佐倉高等学校	軽音楽部
4933	西多摩郡	東京都立瑞穂国高等学校	軽音楽部	9453	横浜市	桐蔭学園中学校男子部	軽音楽部	6660	さいたま市	浦和ルーラル学院高等学校	軽音楽部	5193	川崎市	千葉県立佐倉高等学校	軽音楽部
4936	西多摩郡	東京都立瑞穂国高等学校	軽音楽部	4142	横浜市	神奈川県立白石山高等学校	軽音楽部	4241	さいたま市	浦和ルーラル学院高等学校	軽音楽部	5198	四街道市	千葉県立四街道高等学校	軽音楽部同好会
3992	西東京市	東京都立西東京高等学校	現代音楽部	6831	横浜市	神奈川県立リッパ尾崎高等学校	軽音楽部	4238	さいたま市	浦和ルーラル学院高等学校	軽音楽部	5196	四街道市	千葉県立四街道高等学校	軽音楽部同好会
4938	西東京市	武蔵野女子学院高等学校	軽音楽部	6894	横浜市	神奈川県立日奈谷高等学校	軽音楽部	6668	さいたま市	浦和ルーラル学院高等学校	軽音楽部	5201	市原市	千葉県市原高等学校	音楽部
4937	西東京市	文華女子学院高等学校	軽音楽部	4106	横浜市	サレジオ学院中学校高等学校	軽音楽部	4158	さいたま市	埼玉県立さいたま高等学校	軽音楽部	5202	市原市	千葉県市原高等学校	音楽部
4903	青梅市	東京都立青梅総合高等学校	軽音楽部	6765	横浜市	神奈川県立足柄高等学校	軽音楽部	4161	さいたま市	埼玉県立さいたま高等学校	軽音楽部	5204	市原市	千葉県市原高等学校	音楽部
4903	青梅市	東京都立多摩高等学校	軽音楽部	6846	横浜市	神奈川県立新栄高等学校	バンド部	4163	さいたま市	埼玉県立さいたま高等学校	軽音楽部	5216	市川市	千葉県市川高等学校	音楽部
4973	多摩市	大妻多摩高等学校	軽音楽部	6874	横浜市	神奈川県立立川高等学校	軽音楽部	4166	さいたま市	埼玉県立さいたま高等学校	軽音楽部	5221	市川市	千葉県市川高等学校	音楽部
4972	多摩市	東京都立立川高等学校	軽音楽部	6759	横浜市	神奈川県立立川高等学校	軽音楽部	4165	さいたま市	埼玉県立さいたま高等学校	軽音楽部	5208	市川市	千葉県市川高等学校	音楽部
4763	大島町	東京都立大島高等学校	音楽部	6763	横浜市	神奈川県立立川高等学校	軽音楽部	4164	さいたま市	埼玉県立さいたま高等学校	軽音楽部	5207	市川市	千葉県市川高等学校	音楽部
3991	町田市	桜葉高等学校	軽音楽部	6763	横浜市	神奈川県立立川高等学校	軽音楽部	4160	さいたま市	埼玉県立さいたま高等学校	軽音楽部	5211	市川市	千葉県市川高等学校	音楽部
4007	町田市	東京都立立川高等学校	軽音楽部	6832	伊勢原市	自修館高等学校	軽音楽部	4167	さいたま市	埼玉県立さいたま高等学校	軽音楽部	5220	市川市	千葉県市川高等学校	音楽部
5005	町田市	東京都立町田工業高等学校	ギター部	4081	伊勢原市	神奈川県立伊志田高等学校	軽音楽部	4168	さいたま市	埼玉県立さいたま高等学校	軽音楽部	5215	市川市	千葉県市川高等学校	音楽部
5003	町田市	東京都立町田高等学校	軽音楽部同好会	4082	伊勢原市	神奈川県立伊志田高等学校	軽音楽部	4162	さいたま市	埼玉県立さいたま高等学校	軽音楽部	5219	市川市	千葉県市川高等学校	音楽部
5007	町田市	東京都立町田高等学校	軽音楽部	6768	横須賀市	横須賀市立横須賀高等学校	軽音楽部	4159	さいたま市	埼玉県立さいたま高等学校	軽音楽部	5244	浦安市	千葉県市川高等学校	音楽部
5006	町田市	東京都立町田高等学校	軽音楽部	6771	横須賀市	横須賀市立横須賀高等学校	Play&Produce部	4155	さいたま市	埼玉県立さいたま高等学校	軽音楽部	5234	浦安市	千葉県市川高等学校	音楽部
4019	町田市	和光高等学校	吹奏楽部	6768	横須賀市	横須賀市立横須賀高等学校	軽音楽部	4156	さいたま市	埼玉県立さいたま高等学校	軽音楽部	5228	松戸市	千葉県松戸高等学校	音楽部
5018	調布市	調布市立調布高等学校	ミュージックギター部	4109	横須賀市	横須賀市立横須賀高等学校	軽音楽部	6724	さいたま市	埼玉県立さいたま高等学校	軽音楽部	5230	松戸市	千葉県松戸高等学校	音楽部
5013	調布市	調布市立調布高等学校	ミュージックギター部	4109	横須賀市	横須賀市立横須賀高等学校	軽音楽部	4157	さいたま市	埼玉県立さいたま高等学校	軽音楽部	5229	松戸市	千葉県松戸高等学校	音楽部
5013	調布市	調布市立調布高等学校	ミュージックギター部	4109	横須賀市	横須賀市立横須賀高等学校	軽音楽部	6725	さいたま市	埼玉県立さいたま高等学校	軽音楽部	5236	松戸市	千葉県松戸高等学校	音楽部
4024	調布市	東京都立調布高等学校	軽音楽部	6772	横須賀市	横須賀市立横須賀高等学校	軽音楽部	4153	さいたま市	埼玉県立さいたま高等学校	軽音楽部	5237	松戸市	千葉県松戸高等学校	音楽部
5018	東久留米市	東京都立東久留米高等学校	ギター部	6773	横須賀市	横須賀市立横須賀高等学校	軽音楽部	4159	さいたま市	埼玉県立さいたま高等学校	軽音楽部	5243	松戸市	千葉県松戸高等学校	音楽部
5017	東久留米市	東京都立東久留米高等学校	軽音楽部	6800	横須賀市	横須賀市立横須賀高等学校	軽音楽部	4207	越谷市	埼玉県立越谷高等学校	軽音楽部	5248	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
5020	東久留米市	東京都立東久留米高等学校	軽音楽部	6883	横須賀市	横須賀市立横須賀高等学校	軽音楽部	4208	越谷市	埼玉県立越谷高等学校	軽音楽部	5256	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
5021	東久留米市	東京都立東久留米高等学校	軽音楽部	6889	横須賀市	横須賀市立横須賀高等学校	軽音楽部	4209	越谷市	埼玉県立越谷高等学校	軽音楽部	5257	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
4073	東久留米市	日本経済大学高等学校	軽音楽部	6881	海老名市	神奈川県立海老名高等学校	フォークソング部	4212	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部	5258	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
5022	東久留米市	明治高等学校	軽音楽部同好会	4123	海老名市	神奈川県立海老名高等学校	フォークソング部	4211	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部	5259	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
5022	東久留米市	東京都立東久留米高等学校	フォークソング部	4079	海老名市	神奈川県立海老名高等学校	フォークソング部	4210	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部	5260	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
4029	日野市	東京都立日野高等学校	軽音楽部	6766	鎌倉市	栄光学園高等学校	Rock Music 愛好会	4208	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部	5261	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
5025	日野市	東京都立日野高等学校	軽音楽部同好会	6803	鎌倉市	鎌倉市立鎌倉高等学校	フォークソング同好会	4207	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部	5262	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
4035	八王子市	八王子市立八王子高等学校	軽音楽部	4121	鎌倉市	鎌倉市立鎌倉高等学校	フォークソング同好会	4206	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部	5263	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
5040	八王子市	共立女子第二高等学校	サウンドサティエ	6833	鎌倉市	鎌倉市立鎌倉高等学校	フォークソング同好会	4210	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部	5248	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
3982	八王子市	工学院大附属高等学校	軽音楽部	6849	鎌倉市	鎌倉市立鎌倉高等学校	フォークソング同好会	4211	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部	5244	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
5047	八王子市	聖パウロ学園高等学校	軽音楽部	4086	鎌倉市	鎌倉市立鎌倉高等学校	フォークソング同好会	4208	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部	5267	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
5041	八王子市	帝京八王子高等学校	軽音楽部	6862	鎌倉市	鎌倉市立鎌倉高等学校	フォークソング同好会	4259	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部	5256	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
5042	八王子市	東京都立八王子高等学校	軽音楽部	6807	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	軽音楽部	4177	川崎市	神奈川県立川崎高等学校	音楽部	5253	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
9504	八王子市	東京都立八王子高等学校	軽音楽部	4120	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	軽音楽部	4258	加賀市	石川県立石川高等学校	軽音楽部	5257	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
5033	八王子市	東京都立八王子高等学校	軽音楽部	4120	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	軽音楽部	4259	加賀市	石川県立石川高等学校	軽音楽部	5258	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
5029	八王子市	東京都立八王子高等学校	軽音楽部	6893	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	軽音楽部	4217	川崎市	神奈川県立川崎高等学校	音楽部	5259	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
4027	八王子市	東京都立八王子高等学校	軽音楽部	6821	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	軽音楽部	4220	川崎市	神奈川県立川崎高等学校	音楽部	5261	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
5032	八王子市	東京都立八王子高等学校	軽音楽部	4076	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	軽音楽部	4221	川崎市	神奈川県立川崎高等学校	音楽部	5272	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
4066	八王子市	東京都立八王子高等学校	軽音楽部	6819	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	軽音楽部	6676	狹山市	埼玉県立狭山市高等学校	音楽部	5268	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
4067	八王子市	東京都立八王子高等学校	軽音楽部	6820	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	軽音楽部	4191	狹山市	埼玉県立狭山市高等学校	音楽部	5248	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
5064	府中市	東京都立府中高等学校	サウンド部	4077	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	軽音楽部	4249	狹山市	埼玉県立狭山市高等学校	音楽部	5262	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
4031	府中市	東京都立府中高等学校	軽音楽部	4078	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	軽音楽部	4248	狹山市	埼玉県立狭山市高等学校	音楽部	5263	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
5062	府中市	東京都立府中高等学校	サウンド部	6822	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	軽音楽部	4199	狹山市	埼玉県立狭山市高等学校	音楽部	5280	船橋市	千葉県市川高等学校	音楽部
3986	府中市	東京都立府中高等学校	サウンド部	6808	高座郡	神奈川県立高座郡高等学校	軽音楽部	4198	熊谷市	埼玉県立熊谷高等学校	音楽部	5283	船橋市	千葉県市川高等学校	音楽部
5063	府中市	東京都立府中高等学校	軽音楽部	6827	座間市	神奈川県立座間高等学校	軽音楽部	4200	熊谷市	埼玉県立熊谷高等学校	音楽部	5274	船橋市	千葉県市川高等学校	音楽部
3987	府中市	明星中等教育学校	軽音楽部	4105	座間市	神奈川県立座間高等学校	軽音楽部	4175	戸田市	埼玉県立戸田高等学校	音楽部	5281	船橋市	千葉県市川高等学校	音楽部
5067	武蔵山市	拓殖大学第一高等学校	フォークソング同好会	4100	座間市	神奈川県立座間高等学校	軽音楽部	4179	浦和市	埼玉県立浦和高等学校	音楽部	5276	船橋市	千葉県市川高等学校	音楽部
5066	武蔵山市	東京都立武蔵山市高等学校	軽音楽部	6909	三浦市	三浦市立三浦高等学校	軽音楽部	4180	浦和市	埼玉県立浦和高等学校	音楽部	5283	船橋市	千葉県市川高等学校	音楽部
4979	武蔵山市	東京都立武蔵山市高等学校	軽音楽部	6909	三浦市	三浦市立三浦高等学校	軽音楽部	6905	浦和市	埼玉県立浦和高等学校	音楽部	5283	船橋市	千葉県市川高等学校	音楽部
5069	武蔵野市	吉野高等学校	フォークソング部	6760	小田原市	埼玉県立小田原高等学校	総合音楽部	4248	大塚市	埼玉県立大塚高等学校	音楽部	5286	船橋市	千葉県市川高等学校	音楽部
5070	武蔵野市	聖徳学園高等学校	軽音楽部同好会	6836	小田原市	神奈川県立小田原高等学校	軽音楽部	4152	大塚市	埼玉県立大塚高等学校	音楽部	5286	船橋市	千葉県市川高等学校	音楽部
4035	武蔵野市	東京都立武蔵野高等学校	軽音楽部	6837	小田原市	神奈川県立小田原高等学校	軽音楽部	4215	三郷市	埼玉県立三郷高等学校	音楽部	5289	船橋市	千葉県市川高等学校	音楽部
5072	武蔵野市	藤村女子高等学校	軽音楽部同好会	4087	小田原市	神奈川県立小田原高等学校	軽音楽部	4216	三郷市	埼玉県立三郷高等学校	音楽部	5296	船橋市	千葉県市川高等学校	音楽部
4032	福生市	東京都立多摩工業高等学校	軽音楽部	4114	小田原市	神奈川県立小田原高等学校	軽音楽部	4243	志木市	埼玉県立志木高等学校	音楽部	5299	東金市	千葉県市川高等学校	音楽部
4045	福生市	東京都立福生高等学校	軽音楽部	6880	小田原市	神奈川県立小田原高等学校	軽音楽部	6683	志木市	埼玉県立志木高等学校	音楽部	5300	南房総市	千葉県市川高等学校	音楽部
5141	川崎市	昭和第一高等学校	軽音楽部	6855	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	軽音楽部	4218	春日市	埼玉県立春日高等学校	音楽部	5311	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
4022	川崎市	東京都立川崎市高等学校	Music Create Club	6856	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	軽音楽部	6695	春日市	埼玉県立春日高等学校	音楽部	5306	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
5142	川崎市	立川女子高等学校	軽音楽部	6857	道志市	神奈川県立道志高等学校	フォークソング部	4290	春日市	埼玉県立春日高等学校	音楽部	5301	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
6780	横浜市	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	軽音楽部	6858	道志市	神奈川県立道志高等学校	フォークソング部	4190	春日市	埼玉県立春日高等学校	音楽部	5302	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
6786	横浜市	横浜市立東高等学校	軽音楽部	4113	道志市	神奈川県立道志高等学校	フォークソング部	4176	上尾市	埼玉県立上尾高等学校	音楽部	5303	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
6813	横浜市	横浜南高等学校	軽音楽部	6756	川崎市	カリス女子中等教育学校	軽音楽部	4183	新都市	埼玉県立新都市高等学校	音楽部	5312	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
6890	横浜市	横浜南高等学校	軽音楽部	6814	川崎市	横浜南高等学校	軽音楽部	4245	新都市	埼玉県立新都市高等学校	音楽部	5316	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
6891	横浜市	横浜市立横浜南高等学校	軽音楽部	6823	川崎市	横浜南高等学校	軽音楽部	9482	新都市	埼玉県立新都市高等学校	音楽部	5317	千葉市	千葉県市川高等学校	音楽部
6865	横浜市	聖ヨゼフ学園中学校・高等学校	軽音楽部	6847	川崎市	神奈川県立新城高等学校	軽音楽部	4201	深谷市	埼玉県立深谷高等学校	音楽部	5321	八千代市	千葉県市川高等学校	音楽部
6900	横浜市	白鶴女子高等学校	軽音楽部	4112	川崎市	神奈川県立新城高等学校	軽音楽部	4202	深谷市	埼玉県立深谷高等学校	音楽部	5319	八千代市	千葉県市川高等学校	音楽部
6911	横浜市	法政大学女子高等学校	軽音楽部	6863	川崎市	神奈川県立新城高等学校	軽音楽部	42							

8 中学校・高等学校軽音楽部 顧問通信 VOL.30 | JUL・2020

7972	高槻市	大阪府立三島高等学校 軽音楽部	5814	神戸市	神戸第一高等学校 軽音楽部	8372	広島県	広島県立首高高等学校 軽音楽部同好会	6103	福岡市	福岡県立筑前高等学校 軽音楽部
8024	高槻市	大阪府立大塚高等学校 軽音楽部	5824	神戸市	神戸野田高等学校 軽音楽部	8382	広島県	広島県立三津田高等学校 フォークソング部	6136	福岡市	福岡県立博多青丘高等学校 音楽通信 軽音楽部
8076	高槻市	大阪府立機橋の木高等学校 軽音楽部	5815	神戸市	神戸龍谷高等学校 軽音楽部	8394	広島県	広島県立呉商業高等学校 軽音楽部	6111	福岡市	福岡県立福岡調音館高等学校 軽音楽部同好会
8018	高槻市	大阪府立泉島取高等学校 軽音楽部	5793	神戸市	須磨学園高等学校 軽音楽部	8398	広島県	広島県立広島高等学校 軽音楽部	6100	福岡市	福岡市立博多工業高等学校 軽音楽部
7952	神戸市	賢賢学院中学校高等学校 軽音楽部	5796	神戸市	瀧川高等学校 軽音楽部	8361	広島県	AIJ 中学校・高等学校 軽音楽部	6104	福岡市	福岡市立福岡女子高等学校 軽音楽部
4277	神戸市	香ヶ丘ハイツ高等学校 軽音楽部	5805	神戸市	兵庫県立伊川谷高等学校 軽音楽部同好会	9271	広島県	クランク記念高等学校 広島キャンパス 軽音部	6129	福岡市	福岡県立福岡高等学校 キター部
4275	神戸市	大坂市立東灘高等学校 軽音楽部	5845	神戸市	兵庫県立神北高等学校 軽音楽部	8427	広島県	広島県立広島高等学校 軽音楽部	6130	福岡市	福岡女子高等学校 軽音楽部
8055	神戸市	大阪府立大塚高等学校 軽音楽部	5801	神戸市	兵庫県立神戸商業高等学校 軽音楽部	8375	広島県	広島県立広島高等学校 軽音楽部	9448	福岡市	唯志学園高等学校 軽音楽部
7966	神戸市	大阪府立堺工科大学高等学校 軽音楽部	5848	神戸市	兵庫県立神戸北高等学校 軽音楽部	8380	広島県	広島県立福岡北高等学校 軽音楽部	6122	福岡市	立花高等学校 軽音楽部同好会
4283	神戸市	大阪府立堺上高等学校 軽音楽部	5847	神戸市	兵庫県立神戸鈴蘭高等学校 キター部	8388	広島県	広島県立五日市高等学校 軽音楽部	6141	津浦市	福岡県立水産高等学校 軽音楽部同好会
7967	神戸市	大阪府立堺南高等学校 軽音楽部	5792	神戸市	兵庫県立須磨友友高等学校 キター同好会	8402	広島県	広島県立広島音楽高等学校 軽音楽部	6173	北九州市	伊豆学園高等学校 軽音楽部
7968	神戸市	大阪府立堺東高等学校 軽音楽部	5829	神戸市	兵庫県立東灘高等学校 軽音楽部	8404	広島県	広島県立広島音楽高等学校 軽音楽部同好会	6175	北九州市	九州福岡大付属高等学校 軽音楽部
7959	神戸市	大阪府立成東高等学校 軽音楽部	5799	神戸市	兵庫県立舞子高等学校 軽音楽部	8406	広島県	広島県立広島高等学校 軽音楽部	6150	北九州市	高崎高等学校 軽音楽部
8020	神戸市	大阪府立大塚高等学校 軽音楽部	5841	神戸市	兵庫県立兵庫北高等学校 軽音楽部	8408	広島県	広島県立広島高等学校 軽音楽部	6171	北九州市	自由ヶ丘高等学校 軽音楽部同好会
8081	神戸市	大阪府立東区高等学校 フォークソング部	5818	神戸市	兵庫県立東区高等学校 キターアンサンブル部	8421	広島県	広島県立広島高等学校 軽音楽部	6155	北九州市	真庭高等学校 軽音楽部
8089	神戸市	大阪府立東区高等学校 軽音楽部	5819	神戸市	兵庫県立夢野高等学校 キター部	8429	広島県	広島県立高陽高等学校 キター部	6162	北九州市	真庭高等学校 軽音楽部
8097	神戸市	大阪府立豊高高等学校 軽音楽部	5852	神奈川	神奈川高等学校 キター同好会	8430	広島県	広島県立高陽高等学校 軽音楽部	6160	北九州市	東筑紫学園高等学校 キター部
8105	神戸市	大阪府立美原高等学校 軽音楽部	5869	西宮市	神戸女子学院高等学校 軽音楽部	8413	広島県	広島県立基町高等学校 フォークソング部	6159	北九州市	東筑紫女子高等学校 軽音楽部
8111	神戸市	大阪府立福泉高等学校 軽音楽部	5862	西宮市	仁学院高等学校 軽音楽部	8416	広島県	広島県立大井高等学校 軽音楽部	6153	北九州市	福岡県立仁倉高等学校 軽音楽部
8115	神戸市	大阪府立福泉高等学校 フォークソング部	5866	西宮市	西宮市立西宮高等学校 軽音楽部	8016	広島県	広島県立大井高等学校 フォークソング部	6168	北九州市	福岡県立仁倉高等学校 キター部
4270	神戸市	大阪府立福泉高等学校 軽音楽部	5869	西宮市	兵庫県立西宮中央高等学校 軽音楽部	8417	広島県	広島県立大井高等学校 フォークソング部	6174	北九州市	福岡県立仁倉高等学校 フォークソング部
4301	神戸市	大阪府立福泉高等学校 PMC	5864	西宮市	兵庫県立福泉高等学校 軽音楽部	8437	広島県	広島県立大井高等学校 軽音楽部	6165	北九州市	福岡県立仁倉高等学校 軽音楽部
4300	神戸市	初芝立命館高等学校 新音楽研究部	5872	西脇市	兵庫県立西脇高等学校 キター部	8440	広島県	修道中学校・高等学校 音楽部	6166	北九州市	福岡県立北筑高等学校 キター部
4265	神戸市	大阪府立金岡高等学校 軽音楽部	5878	川西市	兵庫県立川西緑高等学校 軽音楽部	8448	広島県	進達女子高等学校 軽音楽部	6178	北九州市	豊国高等学校 軽音楽部
8082	三郷市	大阪府立金岡高等学校 軽音楽部	5881	川西市	兵庫県立猪名川高等学校 軽音楽部同好会	8449	広島県	崇徳中学校・高等学校 軽音楽部	6147	北九州市	明治学園高等学校 音楽部
7978	四條市	大阪府立四條高等学校 軽音楽部	5883	相模市	兵庫県立相生高等学校 軽音楽部	8471	広島県	比治山女子学校・高等学校 フォー部	6183	柳川市	杉森高等学校 軽音楽部
8035	守口市	大阪府立大和田高等学校 フォークソング部	5884	多摩市	兵庫県立多摩高等学校 軽音楽部同好会	8457	江田島市	広島県立大井高等学校 音楽部	6189	長崎市	活水高等学校 軽音楽部同好会
4294	守口市	大阪府立大和田高等学校 軽音楽部	5887	丹波市	兵庫県立大井高等学校 軽音楽部	8470	江田島市	知水高等学校 軽音楽部	6176	長崎市	知水高等学校 軽音楽部
4271	守口市	大阪府立大和田高等学校 軽音楽部	5888	丹波市	兵庫県立大井高等学校 キター部	8435	江田島市	知水高等学校 軽音楽部	8864	長崎市	長崎玉成高等学校 軽音楽部
7921	守口市	大阪府立大和田高等学校 軽音楽部	5882	朝来市	生野学園高等学校 バンド部	8473	江田島市	広島県立加計高等学校 軽音楽部	8866	長崎市	長崎玉成高等学校 軽音楽部
4297	守口市	大阪府立大和田高等学校 軽音楽部	5904	尾道市	尾道市立尾道高等学校 フォークソング部	8374	山形県	広島県立加計高等学校 軽音楽部	8867	長崎市	長崎玉成高等学校 軽音楽部
4279	松原市	大阪府立松原高等学校 軽音楽部	5895	尾道市	尾道市立尾道高等学校 フォークソング部	8455	山形県	広島県立加計高等学校 軽音楽部	8859	長崎市	長崎玉成高等学校 軽音楽部
7906	松原市	大阪府立松原高等学校 軽音楽部	5905	尾道市	尾道市立尾道高等学校 フォークソング部	8462	山形県	広島県立尾道高等学校 軽音楽部	8869	長崎市	長崎玉成高等学校 軽音楽部
8087	松原市	大阪府立松原高等学校 軽音楽部	5901	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8376	東広島市	広島県立尾道高等学校 軽音楽部	8909	菊池市	菊池女子高等学校 軽音楽部同好会
8067	松原市	大阪府立松原高等学校 軽音楽部	5907	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8377	東広島市	広島県立尾道高等学校 軽音楽部	9014	玉名市	熊本県立玉名高等学校 軽音楽部同好会
8009	豊後市	豊後市立豊後高等学校 軽音楽部	5899	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8488	東広島市	広島県立尾道高等学校 軽音楽部	8905	熊本市	熊本県立熊本高等学校 軽音楽部
8059	豊後市	豊後市立豊後高等学校 軽音楽部	5894	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8382	廿日市市	広島県立尾道高等学校 軽音楽部	8902	熊本市	熊本県立熊本高等学校 軽音楽部
8116	豊後市	豊後市立豊後高等学校 軽音楽部	4274	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8432	廿日市市	広島県立尾道高等学校 軽音楽部	8907	熊本市	熊本県立熊本高等学校 軽音楽部
8094	豊後市	豊後市立豊後高等学校 軽音楽部	5908	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8467	廿日市市	広島県立尾道高等学校 軽音楽部	8921	熊本市	熊本県立熊本高等学校 軽音楽部
8025	尾道市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5907	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8468	廿日市市	広島県立尾道高等学校 軽音楽部	8925	熊本市	熊本県立熊本高等学校 軽音楽部
7973	尾道市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5924	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8438	廿日市市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8936	熊本市	熊本県立熊本高等学校 軽音楽部
7996	尾道市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5922	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8270	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8937	熊本市	熊本県立熊本高等学校 軽音楽部
7997	尾道市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5918	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8475	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8922	熊本市	熊本県立熊本高等学校 軽音楽部
8014	尾道市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5931	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8473	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8928	熊本市	熊本県立熊本高等学校 軽音楽部
8118	尾道市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5917	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8445	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8931	熊本市	熊本県立熊本高等学校 軽音楽部
8000	摂津市	星野高等学校 音楽部	5930	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8476	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8943	熊本市	熊本県立熊本高等学校 軽音楽部
8033	摂津市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5912	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8371	福山市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8933	上益田市	熊本県立熊本高等学校 軽音楽部
8013	摂津市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5932	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8387	福山市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8965	八代市	熊本県立熊本高等学校 軽音楽部
7977	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5922	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8443	福山市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8940	八代市	熊本県立熊本高等学校 軽音楽部
7945	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5921	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8447	福山市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9000	大分市	大分県立大分高等学校 軽音楽部
7964	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5937	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8479	福山市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9004	大分市	大分県立大分高等学校 軽音楽部
8017	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5949	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8424	福山市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9017	大分市	大分県立大分高等学校 軽音楽部
4267	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5917	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	8458	福山市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9040	別府市	別府市立別府高等学校 軽音楽部
8129	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5965	熊本市	熊本県立熊本高等学校 軽音楽部	8520	宇都部市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9040	別府市	別府市立別府高等学校 軽音楽部
7917	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5965	熊本市	熊本県立熊本高等学校 軽音楽部	8494	宇都部市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9040	別府市	別府市立別府高等学校 軽音楽部
7942	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5962	熊本市	熊本県立熊本高等学校 軽音楽部	8498	宇都部市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9040	別府市	別府市立別府高等学校 軽音楽部
8134	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5968	吉野郡	奈良県立吉野高等学校 フォークソング部	8500	下関市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9042	延岡市	延岡市立延岡高等学校 軽音楽部
8139	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5967	吉野郡	奈良県立吉野高等学校 軽音楽部	8558	下関市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9075	延岡市	延岡市立延岡高等学校 軽音楽部
7982	池田市	池田市立池田高等学校 軽音楽部	5969	吉野郡	奈良県立吉野高等学校 軽音楽部	8559	下関市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9073	延岡市	延岡市立延岡高等学校 軽音楽部
7926	池田市	池田市立池田高等学校 軽音楽部	5969	吉野郡	奈良県立吉野高等学校 軽音楽部	8529	下関市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9051	宮崎県	宮崎県立宮崎高等学校 軽音楽部
8068	池田市	池田市立池田高等学校 軽音楽部	5973	南河内郡	奈良県立南河内高等学校 軽音楽部	8491	下関市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9096	宮崎県	宮崎県立宮崎高等学校 軽音楽部
7988	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5979	岸和田市	大阪府立岸和田高等学校 軽音楽部	9502	下関市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9079	宮崎県	宮崎県立宮崎高等学校 軽音楽部
7945	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5977	岸和田市	大阪府立岸和田高等学校 軽音楽部	8552	下関市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9078	宮崎県	宮崎県立宮崎高等学校 軽音楽部
4269	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5987	大東市	大阪府立大東高等学校 軽音楽部	8559	下関市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9086	宮崎県	宮崎県立宮崎高等学校 軽音楽部
7916	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5985	大東市	大阪府立大東高等学校 軽音楽部	8558	美穂市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9081	北諸郡市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
7928	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	9497	大東市	大阪府立大東高等学校 軽音楽部	8579	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9117	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
7991	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5994	大東市	大阪府立大東高等学校 軽音楽部	8582	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9177	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
8107	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5991	大東市	大阪府立大東高等学校 軽音楽部	8587	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
8108	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	6005	奈良市	奈良県立奈良高等学校 軽音楽部	8600	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9187	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
8109	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	6007	奈良市	奈良県立奈良高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
5737	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	6008	奈良市	奈良県立奈良高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
8086	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	6002	奈良市	奈良県立奈良高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
8087	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	6000	奈良市	奈良県立奈良高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
4280	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	6010	奈良市	奈良県立奈良高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
8092	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	5996	奈良市	奈良県立奈良高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
8093	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	6009	奈良市	奈良県立奈良高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
4298	大東市	大阪府立尾道高等学校 軽音楽部	8160	奈良市	奈良県立奈良高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
7938	柏崎市	柏崎市立柏崎高等学校 軽音楽部	8148	奈良市	奈良県立奈良高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
8088	柏崎市	柏崎市立柏崎高等学校 軽音楽部	8160	奈良市	奈良県立奈良高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
7974	八尾市	大阪府立八尾高等学校 軽音楽部	8144	奈良市	奈良県立奈良高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
8102	八尾市	大阪府立八尾高等学校 軽音楽部	8146	奈良市	奈良県立奈良高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
8103	八尾市	大阪府立八尾高等学校 軽音楽部	8143	奈良市	奈良県立奈良高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
8104	八尾市	大阪府立八尾高等学校 軽音楽部	8178	奈良市	奈良県立奈良高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
7911	高松市	高松市立高松高等学校 軽音楽部	8176	高松市	高松市立高松高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
7927	高松市	高松市立高松高等学校 軽音楽部	8176	高松市	高松市立高松高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
4288	高松市	高松市立高松高等学校 軽音楽部	8176	高松市	高松市立高松高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
8106	高松市	高松市立高松高等学校 軽音楽部	8173	高松市	高松市立高松高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
7970	高松市	高松市立高松高等学校 軽音楽部	8175	高松市	高松市立高松高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
8015	高松市	高松市立高松高等学校 軽音楽部	8180	高松市	高松市立高松高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
4295	高松市	高松市立高松高等学校 軽音楽部	8167	高松市	高松市立高松高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
8113	高松市	高松市立高松高等学校 軽音楽部	8180	高松市	高松市立高松高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
8117	高松市	高松市立高松高等学校 軽音楽部	8180	高松市	高松市立高松高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部
8098	高松市	高松市立高松高等学校 軽音楽部	8184	高松市	高松市立高松高等学校 軽音楽部	8615	徳島市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部	9173	尾道市	尾道市立尾道高等学校 軽音楽部



友だち募集!!

NPO法人
全国学校
軽音楽部
協会

① 軽音協の公式アカウント登場

配信内容について

- イベントやスタンプ・プレゼントのお知らせ
- 雑誌発行のお知らせ
- 軽音楽部に関連する情報

友だち登録方法

① QRコード

お手持ちのスマートフォンで、QRコード読み取り機能付きカメラアプリを立ち上げ、右記のQRコードを読み取ります。



② ID検索

LINEの【友だち追加】のID検索から右記のIDを検索。

LINE ID

@520rpyxv

② 楽器で気持ちを伝えるスタンプ

日常生活の中で気持ちを伝えるシーンの数々を生きているように動くネコが表現するスタンプ。人気クリエイター「ベルだめき」とのコラボ作品。（7月下旬発売／販売元：株式会社ミュージックネットワーク）



抽選で
200名様に
プレゼント!



ベルだめき・プロフィール

東京都在住のイラストレーター。LINEスタンプクリエイター。動くLINEスタンプ「なめらかに動くネコ」がヒットし、累計200万個以上を売り上げる。1秒間に20枚の絵を描くことでLINEスタンプ界でNo.1のなめらかさを実現。キモカワイイ×LINENo.1のスムーズな動きが評価され人気クリエイターに。

2018 雑誌Seventeenで女子高生のお気に入りスタンプNo.1に選ばれる。
2019 雑誌JJで女子大生自慢のLINEスタンプNo.1に選ばれる。
2020 TBSひたひたカンカンにて木村拓哉さん、及川光博さんにスタンプを紹介される。
くまモン10周年記念「かモン! くまモン!」MV全てのイラストを担当。
テレビ東京さんだーてれび「うたキラ」のキャラクター、背景デザインを担当。

部Tで結束しよう!

活動中に汚れてもいいように、また動きやすさを追求して、運動部では競技に合ったユニフォームの着用は当たり前です。文化部ではあまり見かけませんが、お揃いのTシャツを着用することで「帰属意識」が高まり、今は部活動の時間だ!という時間の認識にもつながります。また、卒業後は青春時代の部活動の思い出として残ります。自由にデザインした、自分たちだけの部Tを作りませんか。



カラー：レッド	10 枚	20 枚	30 枚
A 胸または背中 1 色	1,980 円	1,450 円	1,280 円



カラー：ブルー	10 枚	20 枚	30 枚
B 胸と背中各 1 色	3,170 円	2,100 円	1,740 円



カラー：ホワイト	10 枚	20 枚	30 枚
C 胸または背中 2 色	2,930 円	1,900 円	1,550 円



カラー：ブラック	10 枚	20 枚	30 枚
D 胸と背中各 2 色	5,290 円	3,230 円	2,530 円



カラー：ブラック	10 枚	20 枚	30 枚
E 胸または背中 4 色	3,050 円	2,980 円	2,980 円



カラー：ブラック	10 枚	20 枚	30 枚
F 胸と背中各 4 色	5,320 円	5,170 円	5,170 円

●素材：United Athle 5.6oz T シャツです●A～D はシルク印刷、E～F はインクジェットプリントです●料金は 1 枚あたりの価格（税抜）です
●T シャツのカラーで若干料金は変わります●袋詰め、送料は別料金です●デザインは 30cm×30cm 内をお願いします●詳しくはお問い合わせください

特定非営利活動法人（NPO法人）

全国学校軽音楽部協会

TEL：045-913-0901
Email：info@keionkyo.org

事業収益は軽音楽部の支援活動に使わせていただきます。

騒音問題はサイレントが解決します。

バンド練習も個人練習も、外に音を出さない。新しい時代の軽音楽部の練習環境と機材。

バンド練習



ZOOM / L-12

ミキサーとレコーダー、オーディオ・インターフェースの機能が1台に凝縮されたデジタル・ミキサー



Roland / TD-1DMK

音量の問題で周囲に迷惑をかけずに、本格的なサウンドで演奏ができる電子ドラム

バンド練習をサイレントに…

電子ドラムとデジタル・ミキサーを組み合わせることで、音を外に出さずにバンド練習をすることができます。

- ①騒音問題を解決
- ②練習場所と時間の確保
- ③練習方法の改善
- ④録音・再生が簡単

リースお見積り例

**ZOOM / L-12 + Roland / TD-1DMK
サイレント・スタジオ・システム セット A**

軽音協ショップ価格 **161,000円** (税別)

月額リース料 **4,000円** (税別) より

紹介映像



個人練習



紹介映像



個人練習もサイレントに…

マルチ・エフェクターを使うことで、ギターやベースは音を外に出さずに個人練習をすることができます。

- ①ヘッドホンで練習できる
- ②あると便利な練習機能を搭載
- ③アンプと組み合わせて使用
- ④コンパクトで持ち運びも楽々



**ZOOM / G1 FOUR
(ギター用)**

Fender, Marshall, Orange などの 13 種類の定番アンプ・モデルと 60 種類のエフェクトを搭載。

軽音協ショップ価格
7,380円 (税別)



**ZOOM / B1 FOUR
(ベース用)**

Fender や Ampeg などの定番アンプ・モデル 9 種類と、60 種類のエフェクトを搭載。

軽音協ショップ価格
7,380円 (税別)

軽音楽部の
楽器や機材は
軽音協に
ご相談ください。
www.keionkyo.shop

※利益は軽音楽部の支援活動に還元しています

楽器や機材の導入は「リース」がオススメ！

軽音協 × シャープファイナンス

① 少ない資金で希望の
楽器・機材を導入できる

② リース物件は
動産総合保険に加入済み

●十分な予算がなくても、月々の支払いで無理なく導入できます。 ●楽器や機材の選定からメンテナンスまで、安心のサポート体制。(故障時の修理と代替機の保証も含まれます)

特定非営利活動法人 (NPO法人)

全国学校軽音楽部協会

URL : www.keionkyo.org TEL : 045-913-0901 FAX : 045-913-1900



VOICE

軽音楽部に関連する意見やインタビューを紹介します。
寄稿やインタビューにご協力いただける方は ご連絡ください。(info@keionkyo.org)



長野県高等学校文化連盟軽音楽専門部
～設立から現在、今後の課題～

池田誠司

長野県高等学校文化連盟 理事／軽音楽専門部 理事長
長野県上田染谷丘高等学校 軽音・フォーク班顧問

学校教育活動と軽音楽部
～地位向上を目指して～

長野いつき

音楽家・日本部活動学会理事

「音楽による人材育成」の取り組み

鈴木雅宏

専門学校国際新堀芸術学院 講師

長野県高等学校文化連盟軽音楽専門部 ～設立から現在、今後の課題～

長野県高等学校文化連盟 理事／軽音楽専門部 理事長

長野県上田染谷丘高等学校 軽音・フォーク班顧問 池田誠司

今回のインタビューは、新型コロナウイルス感染防止のための緊急事態宣言が全国で解除されてから間もない5月末のとある日に、オンラインによるリモート取材の形で行わせていただきました。本格的な授業再開に向けて多忙を極めていた時期であるにも関わらず、長野県上田染谷丘高等学校軽音・フォーク班顧問の池田誠司先生に快くご協力いただきました。

長野県では2005年に高文連軽音楽専門部が設置され、現在では軽音楽部がある学校の約96%が加盟するなど、都市部に負けないほど軽音楽部の活動が長年に渡り盛んです。伝統の「Power Live」という名称の公式大会も多く開催しています。広大な県をまとめるという、長野県における軽音楽部の発展に関する様々なお話を、池田先生に伺いました。

長野県にはマイノリティーを 認める気質があるのだと思います

長野県には「軽音楽連盟」という組織はありません。長野県は、東信、北信、中信、南信の4つの地区に分かれていて、私がいるのは東信地区です。現在は統廃合でなくなってしまいましたが、最初に教員になったのは長野県立臼田高等学校でした。軽音楽部の部員は各学年に10人ぐらいいはいと思います。20数年前ですから、中にはいろいろ問題行動もありましたが、ちゃんと部活動として認められて活動しているなかで、「軽音楽部の大会みたいなものがあったらいいな」と部員と話していました。そんな頃に、長野県高等学校文化連盟が発足するという話があり、当時の教頭先生から「一緒に来い」と言われて会議に行きました。そこで「軽音楽部の大会をやりたい」と言ったところ、煙たがられるようなこともまったくなく、「ぜひ、やってくれ」と言われたんです。それが27、8年前です。

長野県の先生方は、「マイノリティーもちゃん

と筋を通して活動しているのであれば認めてあげよう」という気質みたいなものがあるのだと思います。当時行われていた楽器メーカー主催の大会にも出場させてもらい、また、文化祭でも部活動として発表の場をもらっていました。全国の皆さんの苦労されているお話を伺うと、長野県だから救われたのかもしれませんが。

生徒が「出たい」と思ってくれる ような大会に成長してくれた

最初は、東信地区だけで軽音楽系の部活動やクラブを集めて大会を始めました。専門部という形ではなかったので、高文連の組織の中に入っているようで入っていない感じがした。ただ、高文連の名前を借りながらできたので、教師の出張、引率も比較的簡単にしてもらえて、当時は年に1回でしたが大会も開けました。名称は「長野県高等学校文化連盟東信支部軽音楽」で、「専門部」とか「部間」といった言葉はついていませんでした。もちろん、補助金はもらえていませんでしたが、「専門部になる時の資料になるから」と言っていたので、毎年の会計報告を県に出していました。

長野県の総文祭は4つの地区の持ち回りで行っていますが、東信地区に順番が来た時に、試しにと思い全県に軽音楽部の大会の案内を出してみたんです。そうしたら、数は少なかったのですが、他の地区にも軽音楽部を頑張っている先生方がおられて、生徒を連れて参加してくださいました。それを4年に1度、3回ほど続けていたところ、11年目に高文連の方が「専門部を設置して、ちゃんと予算を取ってやらないか」と言ってくれたので、4つの地区に役員を配置するなどの体制を整え、2005年度に長野県高文連の17番目の専門部として正式にスタートしました。現在では、東信地区で15校、北信地区で16校、中信地区で15校、南信地区

で21校が軽音楽専門部に加盟しています。ご指摘していただくまで気がつかなかったのですが、長野県下の軽音楽部がある学校70校中67校ですから、加盟率が高いんですね。嬉しいですね。それも、先ほどの「気質」のようなものが長野県にはあるからだと思っています。

それに、「Power Live」という名の大会（※注1）が、ありがたいことに生徒が出たいと思ってくれるようなものに成長してくれたことも大きいと思います。長野県では、「Power Live」を目標にする指導ができていないのかなと思っています。顧問が知らなくても、生徒の口コミで「あの大会に出たいから専門部に加盟して」と生徒から言うてくるようです。大会の規定では専門部に加盟していることが最低条件なので、それが加盟数が増えている要因にもなっているのではないかと思います。

顧問としてやるべき、 あるいはできる仕事

専門部の設置以前から、軽音楽部がある学校は多かったと思います。最初は大会に出してくれる学校も少なかったのですが、それぞれの学校で顧問の先生が指導されていた感じだったんじゃないでしょうか。今も、先生方に向けた講習会や研修会などはほとんどしていません。長野県は楽器をやっている先生が多く、普段から生徒と一緒に演奏している先生もいらっやいます。大会で教員が生徒と一緒に演奏することもあり、今も必要があれば場合によって認めています。先生と一緒にやるから生徒が演奏できてステージに立てる、ということもありますから。

中には、楽器経験やバンド経験のない方もいらっやと思います。私も、かつて何もできないのに女子硬式テニス部や男子バレーボール部の顧問をやっていたことがあります。毎日体育館に行ったらボールを拾ったり、最後に気合

※注1 Power Live (パワーライブ)：長野県高等学校文化連盟主催のバンド・コンテスト。2019年度で満26年を迎えた。軽音楽専門部が運営する大会すべてに「Power Live」の名前を冠し、符号で各大会を区別している。TH (1993～、東北信大会、東北の頭文字) / CN (2005～、中南信大会) / K (2005～、県大会) / KF (2005～、県フェスティバル) / T-A (1994～、東信支部秋季・autumn-フェスティバル) / N-W (2018～、南信支部冬季・winter-フェスティバル)

を入れる話をしたりしていました。試合でも「先生、タイムを取るタイミングが遅いよ！」なんて叱られてましたし（笑）、そんな慣れないことをやっていた経験もあります。それは、軽音楽部でも同じだと思います。軽音楽部の顧問にとって一番大事なことは「練習室の管理」です。鍵の管理をして、きちんと整理整頓をして、機材を大切に使用せ、時間を守って練習させること。そして、文化祭に向けて生徒と共に計画を立て、業者と折衝して生徒の発表の場を作り上げる…。それらは技術指導ができなくても、顧問としてやるべき、あるいはできる仕事だと思います。それに、私にとって運動部の顧問の経験は、のちの軽音楽部の運営にも生かせていると思います。

私は、どっちかと言うと「背中を見てついて来い」というタイプで（笑）、部屋の管理とマナーの徹底、そして、部活動として部員の気持ちを1つにさせて、一体感を持たせることを第一に考えています。軽音楽部はバンドごとの活動になりがちですが、大会で「部活動として上位を目指すんだ」という気持ちを持たせたり、文化祭の演奏などでも自分の演奏が終わったらそれで終わりではなく、全員で協力して成功させようという気持ちを持たせることを念頭に置いています。定期演奏会では、全員の演奏が見られるので、終了後には30分ぐらい喋っちゃったり、良いところや悪いところをメモして渡したりしています。指導するのはその時ぐらいです。1年生の、初心者の方は直接指導をしたりしますが、基本的には先輩から後輩に指導できるように組織作りをしています。

あとは、練習部屋の環境を整えてあげることも大事ですね。2年前にこの学校に赴任してきた時は練習室に電源もなくて、体育館から毎日延長コードで引っ張ってきていたんですけど（笑）。去年、大会の成績が良かったということもあってか、事務長が何とかしてあげようと電源を引いてくれました。やっぱりきちんとやっていると助けてくれるんです。それと、荷物置き場になっていた部屋を練習室にしたり…、1年目はそんな苦労もありました。

大会が目標になっていると、服装やレギュレーションの徹底も図れます

大会の最初の1、2回は、東御市の文化会館で手弁当で行いました。大きなホールに簡単な機材でしたが、音響機材を持っていた先生に持ち込んでいただいたり、ドラムやアンプなどの楽器はそれぞれで持ち寄ったりしていました。その後

は、文化会館の方から強力なバックアップがあり、大会ができるように機材を揃えてくださいました。ですので、PA関係のことで苦労したことはないですね。でも、お金はかかりましたよ（笑）。他の地区で行う時の機材やエンジニアは、南信地区の先生から近くのライブハウスの方を紹介

していただいて、今でもお願いしています。やはり、長く続けているとだんだん人がつながってきて、サポートしてくれる方ができますね。

大会予算は、生徒から参加費を集めています。最初は1人500円くらいでした。生徒にお金を出させるのは非常に抵抗があったので、企業をまわって広告料を集めたりもしていたんですが、今は受益者負担という考え方で1人2,000円になっています。それでも出たいと思ってくれる生徒が多いのでありがたいですね。大会が目標になっていると、服装やレギュレーションの徹底も図れます。自他共に認められる大会にしたいという気持ちで茶髪、ピアス禁止などのレギュレーションを導入して10年以上になります。やはり学校現場ですので、あくまでも部活動の発表の場であり、学校生活の延長として、その辺りはしっかりとさせたいという先生方の想いがあります。

大会ではオリジナルでもコピーでも良いのですが、どちらであっても「その日の演奏」で審査しています。だんだんオリジナルが増えてきているので、生徒の個性は見えやすいかもしれませんね。でも、オリジナルだから良いというわけではありません。いつもオリジナル曲が優勝するとは限りませんからね。

「演奏したい」という生徒がいる限り、サポートしてあげてください

現在の悩みは、大会へのエントリー数が多くなって、1日で運営が仕切れなくなってしまったことです。今は地区大会に出る段階で、各学校に校内順位をつけてもらって、部員数の比率で各学校の出場バンド数を決めています。

また、年間で開催している大きな大会は、地区大会、県大会、県全体のフェスティバルとい



う3種類なんです。それ以外にも各地区で交流会（大会）ができれば良いと思っています。北信地区と中信地区ではまだできていないので、今後盛り上げていきたいと思っています。それに、以前行ったエフェクター講習会や、技術講習会などを開きたいと思っているのですが、地区の広がりが大きくて長続きしないんですよね。そういう意味では、後進の顧問を育てるといったこともやっていかなくてはいけないと思っています。大会を進めることが自分の使命だと思っています。27年間やってきましたので、その辺のことは後回しにしてきちゃいましたね。でも、今の事務局長である野沢南高等学校の金山先生はまだまだ若いですし、いろいろやってくれるんじゃないかなと思っています。もちろん、デジレコ・ジュニアのアンケートにも書きましたが、軽音協のご協力もお願いできればと思っています。

他県の連盟立ち上げや専門部設置に向けて頑張っている先生方に私が言えるのは、「演奏したいという生徒がいる限り、長く続けてサポートしてあげてください」ということでしょうか。そうしていくうちに認められていくし、助けてもらえるし、お金もいただけるようになると思います。自分はただ続けてきただけだと思っているので、そのぐらいのことしか言えないですね…。そういう意味で言うと、私はラッキーだったかもしれません。軽音楽部があるところに異動し続けられましたし…。

今は、今年度の活動をどうするかが一番の悩みどころです。長野県として何かしらのガイドラインを出したいと思っているうちに2ヶ月経ってしまいました。3年生が不憫でならないんですよね。本当にかわいそうです。でも、このコロナ禍を期に皆さんオンライン会議が普通にできるようになったと思うので、今後はもっと県内や全国の皆さんと情報交換ができれば良いと思います。（インタビュー）

学校教育活動と軽音楽部

～地位向上を目指して～

音楽家・日本部活動学会理事 長野いつき

指導要領上の位置づけ

「教育課程外の学校教育活動と教育課程の関連が図られるように留意するものとする。特に、生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにするものとする。」(高等学校 学習指導要領 (平成 30 年3月告示))

部活動は、教育課程の外側にある活動ではあるが、学校教育活動の一環として、上記のようにその在り方の方向性が明文化されている。特に、教育課程の根幹をなす教科教育との関連は必要だろう。単なる娯楽活動ならば、決して少なくない予算や現場の労力を割いてまで、学校の部活動を維持する必然性はない。

ところで、「軽音楽部」と聞けば、どうだろうか。先に軽音楽部活動について調査研究している玉木が指摘しているように「不良、茶髪、ロン毛などあまり良いイメージを持たない人もいないかもしれない」^①という意見も否めない。音楽系部活動においては、戦前より学校に根付いている吹奏楽の影響が今でも根強く、軽音楽部は対照的に捉えられがちな側面もあるだろう。名称に

“軽”の文字が入っている点も影響しているのだろうか。

しかし、「軽音楽」は部活動の一領域として隆盛させる価値を大いに秘めている。今回は、部活動の前提条件である教育課程との関連を考察していこう。

音楽授業との関連

義務教育9年間では、音楽科は必修である。一方、高等学校では、芸術科の科目群の中に音楽が設置されており、音楽教育としては必修ではない。ただし、学校教育法第五十条にて「高等学校は、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的とする。」と規定されている。即ち、仮に音楽を履修しない生徒においても、中学校までの教育課程の延長として捉えれば、音楽活動を学校で営むことを妨げるものではない。ちなみに、現行の教育課程ならば、義務教育9年間で音楽科を計473コマ履修する。完全週休2日制導入までは、もっと多かった^②。

読者の皆様は、音楽の授業と聞けば、どんな活動を連想するだろうか。鍵盤ハーモニカやリコーダー演奏、唱歌、例えばバッハやモーツァルトといった数百年前の西洋音楽の鑑賞など……軽音楽とはかけ離れているように感じるかもしれない。

しかし、今日の音楽の授業内容は、趣が変化しつつある。端的に言えば、扱う音楽の様式が

多様化している。

教科書を開けば、まず巻頭特集がマイケル・ジャクソンのものがある。本編では箏や尺八のような和楽器実技、中国の京劇やスイスのヨーデル鑑賞のような国内外の伝統音楽や、桑田佳祐、絢香、EXILE やももいろクローバーZのようなJ-POPの歌唱実技や歴史などが盛り込まれている。シャノンソノやボサ・ノヴァといった海外のポピュラー音楽もある。数百年前の「西洋音楽至上主義」はもう過去のものになりつつある。

軽音楽と親和性の高いロックやジャズも例外ではない。中学校や高等学校の教科書にビートルズやディープ・パープルが取り上げられ、更にロックやジャズの歴史まで網羅されている。エレキ・ギターやエレキ・ベース、シンセサイザーやドラムの奏法やエフェクト原理についても、ページが割かれている。我々学校の音楽教育を専門とする者も、常に知識を更新し続けなければ、あっという間に時代遅れになってしまう。

こんなに多様化した今日の音楽科の内容—平成20年告示版の中学校音楽科指導要領からは、「音楽文化」の理解も目標に掲げられるようになったことも無視できない^③。ここには、国際化が進展する中で、国内外の多様な文化を尊重する態度の育成が重視すべきだという考え方が反映されている。

ここまで列挙すれば、軽音楽の部活動と音楽の授業との関連を否定する方が難しいだろう。まず、軽音楽部活動は、生徒が本来音楽の授業で履修しているはずの内容の延長線上にあることはいうまでもない。それどころが、今日の学校音楽教育の目標の実現にも寄与できる。

尚、軽音楽で扱う音楽の表現語法は、バッハやモーツァルトの音楽の延長線上にある。いわゆる「クラシック^④」と「ポピュラー」のような二項対立ではない。旋律やリズム、拍子やコード、音階の体系など、音楽的要素の多くは、江戸時代の日本音楽より、同時期のヨーロッパ音楽の体系に近い。音楽大学にロックやジャズの専攻を設置される例も増えてきたが、こうした経緯

① 玉木博章 2018『部活動改革2.0』長沼豊 編著 (中村堂) p.106

② 昭和43年・44年告示の学習指導要領では、義務教育9年間で計627コマであった。

③ 高等学校芸術科においては「芸術文化」となる。

④ 厳密にはモーツァルトやハイ든のような古典派音楽を指すが、我が国ではより広範な概念を指していることが多い。

そのため、「いわゆる」と冠することにした。

⑤ 音楽の総合的な基礎技能全般を指す。

⑥ 英語に限らず、イタリア語やスペイン語にも、この考え方は適応できる。

⑦ 「ポピュラー音楽」の範疇は人により様々であるが、ここでは、ロックやジャズ、マスメディアやインターネットによって伝播する歌謡曲などを含むものとする。

から、西洋音楽史の単位や、オペラ歌手を志望する学生らと同様にソルフェージュ^⑤の単位を必修としていることが一般的だ。だから、上記の通り、教育課程においてバッハやモーツァルトのような古い西洋音楽の比重が相対的に減ったとはいえ、軽音楽活動を発展させるためには、そうした音楽の学習も不可欠である。

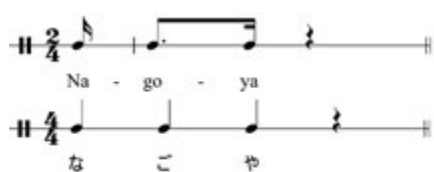
このように、軽音楽の部活動は、教育課程内の音楽の授業と密接な関係性がある。軽音楽の部活動を深化させたいならば、第一に音楽の授業や教科書を活用しない手はない。これなら、「自主的・自発的」な自治的活動も実現しやすい。

他教科との関連

音楽は、それだけを文化活動全体から切り離して考えることはできない。文化は、その時代の文学や社会情勢の影響を強く受けている。つまり、音楽は、それ自体に、近年の学校教育のトレンドでもある「教科横断的」な要素を含んでいるはずだ。ここでは軽音楽部活動における教科横断的な要素を検討してみる。

自らの演奏のノリの悪さに悩む生徒は少なからずいるだろう。ここで、次のように英語と音楽双方の知識を融合させれば、この課題をいくら解決しうる。

日本人ならば「名古屋」を「ナゴヤ」と1音節1拍のような感覚で発音するだろう。しかし、これをヨーロッパ人が読んだら、その多くは「ナゴヤ」のように“ゴ”に明瞭な強勢を持たせるだろう。この感覚の差が、西洋の音楽を基盤とする音楽のノリを考える上で極めて重要な要素である。細かい理屈は専門書に委ねるが、この差を音楽的に表現すれば、譜例1ようになる。つまり、日本語にはないが、英語には内在する強勢の前に飛び出した弱起(独 Auftakt)の概念を念頭に置けば、ノリに関する意識の方向性



▲譜例1

が見えてくる。ある程度まとまった長さをもつ楽曲ならばどこかに弱起のフレーズが含まれているはずなので、こうしたところを分析してみると良いかもしれない^⑥。

軽音楽部ならば、エフェクトをはじめとする電気楽器の用法も見逃せない。エフェクトは、音の波形を加工するものが多いが、そもそも音は物理現象であるから、エフェクトの有効活用には理数系の教科の知識も欠かせない。深入りすると高校生には難しいものも出てくるが、ディレイやリバーブのタイム設定は、中学レベルの方程式を活用すれば適切な値を導出できる。ディレイを掛けてみたけど、「なんか耳障りだな」と感じたならば、数学科の「方程式の活用」を思い出してみると良いかもしれない。効果的なデューナーミク(強弱の変化により、音楽に表情をつける方法)には、高校数学Ⅱで学ぶ指数関数や対数関数的発想も必要だ。

ほかにも列挙したらキリがないが、音楽は、高校生らが考えている以上に理性的な側面を強く有していると考えて差し支えないだろう。あらゆる学問の知識を総動員して、論理的な芸術表現を体現することが可能なのだ。

ところで、軽音楽で扱うことが多い「ポピュラー音楽^⑦」を音楽学の一領域として研究する動きが盛んになったのは、この半世紀ほどのことである。「ポピュラー音楽」は、言うまでもなく著しい進歩を遂げている科学技術の影響を受けた社会と一体不可分の存在だ。つまり、「ポピュラー音楽」も、あらゆる観点から、教科横断的発想で紐解けるはずだ。「ポピュラー音楽」は、19世紀までの音楽に比べ、歴史は浅くとも、学

術的な価値は決して劣らない。むしろ、まだ開拓されていないことがたくさんある。このような観点からも、軽音楽部活動は、生徒に新たな示唆を与えてくれるかもしれない。

最後に

全国学校軽音楽部協会が既に各所でPRしているように、軽音楽部の活動は、単なる娯楽にとどまらない。本記事で述べてきたことも合わせて踏まえれば、少なくとも学校における部活動の存在意義の1つである教育課程との関連は、十分に実現しうる。

冒頭で触れた通り、部活動は、「生徒の自主的、自発的な参加により行われる」活動でもある。大人が手取り足取り指導・介入すべき場ではない。ただし、生徒の安全確保は必要だ。運動練習と同様、音楽活動も体に少なからず負荷を与えている。楽器をぶら下げたり、大きな音に晒されたり、激しく踊ったり—どんなに楽しく有意義な活動でも、やりすぎは禁物である。だからこそ、身体の特性を正しく理解している専門家の支援は時には必要である。

また、先述した通り、軽音楽部活動にあまり良い心象を抱いていない人はいる。だからこそ、今日教育課程との関連や学術的価値を念頭に、軽音楽部活動の教育的意義を様々な場で発信し続ける必要があるだろう。「アフターコロナ」はまだ見通せないが、既存の部活動にも少なからず影響を及ぼす可能性が高い。「ブラック部活動」は根絶しなければならないが、一方で吹奏楽に比べ少人数編成が基本であり、小規模化が進む学校でも組成しやすいこと、またICTとの親和性も高い軽音楽部活動は、現代日本に適した活動と言えるかもしれない。これを機に全国で隆盛することを願っている。

〔Profile〕

長野いつき

音楽家。2017年、大学院修了同年に発足した日本部活動学会の理事に就任。現2期目。大阪府在住。専攻は作曲。ほか、ピアノ実技、音楽学、音楽教育の研究。表現活動に加え、音楽を核にした地域振興事業や現場の先生方の音楽授業のお悩み相談、性同一性障害当事者向け発声法講座なども手掛けている。

〔参考文献〕

- 神谷 拓 2017『対話でつくる教科外の体育』(学事出版)
久保田慶一 2011『キーワード150 音楽通論』(音楽之友社)
長沼 豊 2018『部活動改革2.0』(中村堂)
文部科学省 2008文部科学省『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)』
2009文部科学省『高等学校学習指導要領(平成21年3月告示)』
2017文部科学省『高等学校学習指導要領(平成29年3月告示)』
2018文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)』

- Miller, H. M. 2000『新音楽史』 村井範子ほか訳(東海大学出版会)
新実徳英ほか 2017『Tutti1』(教育出版)
2018『Tutti2』(教育出版)
2019『Tutti3』(教育出版)
西尾 洋 2015『応用楽典 楽譜の向こう側』(音楽之友社)
小原光一ほか 2016『中学生の音楽1』(教育芸術社)
2016『中学生の音楽2・3上』(教育芸術社)
2016『中学生の音楽2・3下』(教育芸術社)
2017『Mousa1』(教育芸術社)
2018『Mousa2』(教育芸術社)
2019『Joy of Music』(教育芸術社)
山本茂哉ほか 2017『高校生の音楽1』(音楽之友社)
2018『高校生の音楽2』(音楽之友社)
2019『高校生の音楽3』(音楽之友社)

「音楽による人材育成」の取り組み

専門学校国際新堀芸術学院 講師 鈴木雅宏

私は湘南（神奈川県藤沢市）の音楽専門学校、国際新堀芸術学院で運営を担当しています。当校は楽器演奏の実技のほか、合奏（アンサンブル）、イベント企画運営などの実習、部活動や音楽教室への教育実習、幅広い学びで卒業後から社会人として通用する人材を育成しています。結果、卒業生は音楽関係の仕事のほか、一般企業でも活躍しています。

当校は「音楽で人材育成」を掲げており、音楽が人材育成に与える影響を強く実感しています。世間一般的に音楽は楽しむもの、音楽＝遊びという認識が強いと思いますが、実は理想的な人材育成ツールでもあると思っています。そんな当校の取り組みの一部をご紹介します。

教育実習

当校最大の特徴です。実際に音楽教室や部活動の現場に入り、指導を行います。教育現場に実際に立つことにより、コミュニケーション能力や社会性を磨いていきます。実習先として、2つのジャンルがあります。

1. 音楽教室への実習

音楽教室へ実習に出て、生徒さんを実際に教えます。指導計画を立てる、イベントと一緒に出演する、悩みを聞くなど…生徒さんに寄り添って「音楽を楽しむ」お手伝いをします。

【指導法】

それを可能にしているのが当校の特徴でもある「教える技術」を教える授業、「指導法」という授業です。自分が演奏できるのは当たり前、その技術をどのように伝えていくか、という授業です。この授業で先生としての立ち居振る舞い（服装、言動なども含む）や基本的な教え方をマスターします。具体的には、以下のような勉強をします。

【技術系】…正しいフォーム、奏法、練習方法、基礎練習ネタ、楽器知識、選曲方法、アンサンブルなど

【立ち居振る舞い】…先生としての話し方、服装、コミュニケーション方法、考え方など

【その他】…目標設定方法、ロードマップ作成、指導記録方法、生徒管理方法など

当校は創立63年で「新堀ギター音楽院」が母体となっており、指導データが山のように存在します。そのデータを基に、どのように生徒さんに接するべきか、どのように目標を立てるか、どのようにロードマップを描いていくか、などを学んでいきます。技術を教えるだけでなく、相手の立場に立って考え、どのように指導すれば相手は幸せになってくれ

るか、このことを理解するための指導法です。しかし、スキルや考え方の基本を学んだだけでは足りません。実際に現場で体験して初めて自分のモノとして身になっていきます。その実践場が「教育実習」となります。

【指導プラン】

現場の生徒さんには下は未就学児、上は80代の方まで、演奏技術も初心者から上級者までいます。指導法で学んだ基本を駆使し、その人に合った「指導プラン」を立てていきます。例えば…

◆高校生（初心者）の生徒さんの場合

【1ヶ月目】…正しいフォームを身につける→必要な基礎練習を教える→簡単な曲のさわりを教える

【2ヶ月目】…簡単な曲の完成→アンサンブルの体験

【3ヶ月目】…楽器の知識を伝授→少し長めの曲の練習→数人でのアンサンブル体験

【6ヶ月目】…発表会への出演→基礎練習の発展→曲のレベル・アップ等々

上記のようにプランを立て、進行状況と照らし合わせていきます。最もわかりやすい目標は「発表会」となるので、そこに意識を向けさせますが、その前にある「小さい目標」（各テクニックや課題曲）を1つ1つ越えていくことで、大きな目標に向かっていくということを意識しながら指導していきます。例として初心者を挙げましたが、生徒さんの中には上級者もいます。その場合は、「コンクール出場」や「グループ（バンド）」を組んで活動やレコーディング…など、レベルの高いプランを作成し、進行していきます。生徒さんによってまったく違う状況ですが、「どうしたら目の前の人が幸せになるか」ということを考え実践していきます。

運営のシミュレーションを行うことで、卒業後に独立して音楽教室を立ち上げる卒業生もいます。ここでのスキルが直接役立っています。

2. 部活動への指導実習

こちらは指導する対象の年齢が限定され、主に中学生～高校生の部活動での指導実習です。音楽教室と最も違うところは、音楽教室は基本的に1対1（時には数名～10数名のアンサンブルもあり）の実習になりますが、こちらは1対10～100人という大人数を教えることになります。音楽教室に比べ、大会という目標設定が既に設定されている場合が多いので、最初からそこに向かっていく指導となります。部活動によっては大会に出場しない場合もあるので、その場合は学園祭などの目標設定からスタートします。

【部活動指導法】

一人ひとりの技術指導はもちろんですが、グループ単位、部活単位の技術指導が必要になります。軽音楽部などのバンド系の部活動であれば3人～5人、ギター部やマンドリン部などのクラシック系であれば10人～100人に対して指導をしていく必要があります。当然、指導力が必要です。チームをまとめるリーダーや監督、プロデューサーにならないと、まったくまとまりません。部員の信頼を得つつ、期待に応える指導を行い、部員とコミュニケーションを円滑に取り、リーダーシップを発揮して目標に導いていく能力が必要になります。そのスキルを学ぶため、「部活動指導法」という授業でリーダーシップや指導法を学びます。

【コミュニケーション】

部員とのコミュニケーションだけでなく、顧問とのコミュニケーションも大ことです。コーチが自分のやりたいように勝手に指導することはNGです。必ず部活動の方針、または学校の方針に従い、指導計画を立てていきます。顧問との連絡を密にし、最適な方針を提案します。部活動によっては「保護者会」などを設置している学校もあるので、保護者の方とのコミュニケーションも円滑に行います。

【部活動に対する知識を学ぶ】

授業で最も重視しているのが「部活動を知る」ということです。

●部活動の目的

部活動は教育活動の一環であるということを理解し、「プロを目指す」や「楽しむこと」が目的ではないことを理解させます。自分を磨き、仲間と共に活動し、同じ目標に向かって進んでいく。それを指導者がサポートし、部活動全体を同じ方向に導いていく必要があることを学ばせます。

●大会組織

部活動をサポートしてくれる団体、人物に対しての理解を深めます。1つの部活動だけでは活動内容は限られてしまいます。他校の部活動があり、大会組織があり、たくさんの方々のサポートを受けながら活動をしていることを学びます。

●部活動の歴史

各学校の部活動についてはもちろん、その部活動自体がどのようにして発展してきたかを学びます。黎明期には数人の先生方の熱意で連盟が立ち上がり、規模が小さい所から大会が開催され、たくさんの賛同者と共に現在の位置にあることを理解します。それらの理解を基に、音楽教室と同じく「指導プラン」を作成し、実行していきます。対個人だけでなく、対学校、対保護者となるため、高度なコミュニケーション能力を学び、実践していきます。

イベント企画、運営

当校では様々なイベントが開催されていますが、そのイベントのほとんどは、学生が自主的に運営しています。定期的に開催されるコンサートやライブ、学園祭、年に1度の全校生による定期公演など…1ヶ月～2ヶ月に1回は何かしらのイベントがある計算になります。最近ではコロナ禍によりイベント開催が難しいため、「STAY HOME コン서트」と名付けた



オンライン・コンサートを隔週で開催しています。

【各役割を学ぶ】

どのイベントにも共通しているのが、「イベントごとに役割が変わる」ということです。イベント開催にはいくつかの役割が必要です。トップの総進行（プロデューサー）に始まり、演奏者、広報、舞台スタッフ、音響、照明、司会者…そのすべてを学生が担当します。今回のイベントでは広報だったけど、次のイベントでは舞台スタッフ、このイベントでは演奏をして、こっちはイベントではプロデューサーを務める…ということもあります。つまり、複数の「仕事」を経験する形になります。それぞれの役割には必要なスキルが違ってきますので、その都度、覚えることになります。一見大変ですが、最終学年になる頃にはイベント全体が見渡せる視野を身につけることができます。

【スタッフ実習】

自主運営とは違いますが、当校では実習として部活動の大会やコンクール、定期公演や合同ライブなど、様々な場面でスタッフとして参加します。日頃自分たちが学んでいる役割の実践の場であると同時に、「縁の下力持ち」の素晴らしさを学びます。スタッフと言ってもイベント当日のみ参加するわけではなく、進行や掲示物の作成、会場準備などの準備段階から参加します。「自分たちの手で作った舞台で部員が輝いている」という経験は何物にも代えがたい経験です。さらに、自分たちが演奏者として舞台に立った時に、運営スタッフの苦勞を背負いながら演奏することができます。輝かしい舞台は決して自分一人の力で作り上げたものではない、ということに気づきます。そして今自分が舞台に立っていることに「感謝」をします。スタッフ実習を通して、人生にとってとても大事なことを学びます。

以上、一部ではありますが、当校の取り組み（授業、実習）をご紹介いたしました。「演奏」は自分を磨くという意味でとても有効な取り組みです。しかし、そこに留まらないのが当校の特徴です。「指導法」や「実習」などを通して多くのことを学び、実践し、将来に役立てています。

現在の実習先は音楽教室や部活動などの教育分野に限られますが、今後はインターンシップなどを活用し、一般企業などにも実習に行くことを考えています。指導法や実習で学んだスキルを武器に、教育以外の分野でも活躍できる人材を育てていきたいと考えています。

適切な備品購入のすゝめ

軽音楽部の標準機材2020



軽音楽部は数ある部活動の中でも、学校が用意する備品や機材が多い部活動だと思います。バンドごとの活動が主な軽音楽部では、バンド練習に使用する部屋の数だけ機材が必要になります。また、軽音楽部は電気を使う機材が多いので、修繕や買い替えも他の部活動に比べ多くなりがちです。当然予算は膨らみ、顧問の皆さんは毎年やりくりにご苦労されていることとお察しいたします。

今回は、現代の軽音楽部にとって最低限必要で、学校部活動に見合う機種を「軽音楽部の標準機材2020」と題して紹介します。もちろん、好みや環境によつての違いなどもあると思いますが、今後の音楽業界 & 楽器業界の動き、軽音楽部の向かっていくであろう方向性などを鑑みて選んでみました。それぞれの学校のご事情に合わせて参考にいただければ幸いです。

今回の特集で紹介する機材や備品は、あくまでも「機能や価格が軽音楽部に見合う機種例」として掲載しており、特定の商品の購入をお勧めするものではありません。実際の購入やご相談は、全国学校軽音楽部協会までお気軽にご連絡ください。



www.keionkyo.shop



軽音楽部に 必要な 機材 & 備品

軽音楽部にはどんな機材が必要なのか…。比較的新しい部活動である軽音楽部では、必要な機材 & 備品に対するきちんとしたガイド・ラインのようなものはまだなく、運動部や吹奏楽部など他の部活動とも環境や事情が違うので参考程度にしかありません。しかし、これからの軽音楽部像も視野に入れて環境を整備していく方が、コスト的にも部員の活動にとっても有効であることは間違いありません。

個人の機材と備品の線引き

学校それぞれで、練習場の数や広さ、部員数やバンド数、騒音問題、予算などの状況に違いがあり、一口に「軽音楽部に必要な機材 & 備品とは」と言ってもかなり幅があると思います。重要なのは、「部活動として」どれぐらいの機材が必要か、ということになるでしょう。

必要な機材、すなわち「学校が備品として用意しておくべき機材」を考えるポイントはいくつかあります。まず大切なことは、「個人の機材と備品の線引き」です。例えば、ドラム・セットは太鼓やシンバルを単品で買い揃えるよりも、メーカーがセット売りしているものを購入した方が断然お得です。しかし、セットには大抵スネア・ドラムやキック・ペダルも含まれていますが、この2つはドラマー部員がそれぞれで持参すべきだとも言えます。ギターやベースと同じ考え方です。そうすると、キーボードやマイクはどうなの？という疑問も湧いてくることになります。備品の線引きが変わってきます。

とは言え、ドラムはセットで購入するべきだと思います。セットのスネアとペダルは初心者のみ使用可にして、なるべく早くマイ・スネア、マイ・ペダルを持つように勧めましょう。自分の機材を使うことによって、「音」への関心が高まり、良いプレイをするためにどんどん知識欲が膨らんでいくと思います。そう考えると、キーボードも同様に部員それぞれがマイ・キーボードを持参する方が断然有効です。近年のキーボードは小型化、軽量化が進み、女子でも楽に持ち運べます。もちろん、価格も一昔前、二昔前に比べて段違いに安くなっています。マイ・キーボードがあれば、個人練習や音色作りに時間をかけることができ、いつも同じキーボードで演



◀「軽音楽部に必要な備品」
「軽音楽部に見合った機材」
を考えてみる

奏することで、自分もプレイしやすく、バンド・サウンドもまとまっていきます。時代に合った線引きを考えましょう。

共用した方が良いものが備品

では、ボーカル・マイクはどうでしょうか。ドラムやキーボードの例で言えば、ボーカリストそれぞれがマイ・マイクを持参した方が良いでしょう。もちろん、機材を大切に使う気持ちも育まれ、衛生面を考えても、マイ・マイクを使う方がお勧めです。しかし、現在一般的にボーカル用のマイクとして使用されているのは、SHURE社のSM58がほとんどです。他に軽音楽部に見合った機種はたくさんありますが、価格、丈夫さに加え、大会などで使用されるボーカル・マイクがまずSM58であることを考えると、マイク選びはほぼ一択になります。仮に、ボーカリスト全員が性能の違うマイクを持参した場合、マイクごとのミキサー調整が面倒なだけでなく、スピーカーにうっかりマイクを向けてしまったりハウリング現象を起こす可能性も高まります。現在では、マイ・マイクの購入は「SM58であること」という条件付きになるので、それ

ならば備品として揃えておこうという選択肢も出てくると思います。

また、ケーブル類や延長コードなども、個人で用意すべき範囲に基準がないものの1つです。一般的には、ギターやベースのシールド・ケーブルは個人持ち、キーボードのシールド・ケーブルやマイク・ケーブルは備品、となっている学校が多いと思います。しかし、ケーブル類は楽器にとって大事な備品です。音を出すことへの責任を自覚させるために、キーボード本体が学校の備品であってもシールドは個人が持参すべきでしょう。マイク・ケーブルは「キャノン端子」ですが、ギター用と比べて価格は変わりません。マイ・マイクであれば、普段の練習ではケーブルも個人持ちが自然です。

「初心者にはスネア・ドラムやキーボードなどを選んで買わせるなんて無理だ」という意見もよく聞きます。しかし、同じ状況でギターやベースを用意してくる部員がいることも事実です。

「部活動」としての基準を

個人の機材か備品かを線引きする基準は、いわゆる「バンド活動の常識」に起因するのは

なく、部活動としての考え方に起因するべきです。それは「道具を大切に扱う」ことや、「自分が出すサウンドに責任を持つ」こと、あるいは「部員としての意識向上」かもしれません。

また、技術の発達により機材も大きく進化している現在、「今の」部活動に見合った機材とは何なのかという検討も必要です。固定概念や「そういうもの」といった古い常識を捨てて、今現在、そして未来の軽音楽部とはどんな形が理想なのかを含めた、「部活動」としての基準を構築することが重要なのではないのでしょうか。

バンド練習場に必要な機材

軽音楽部に長い歴史がある学校は、機材や備品も充実しているかもしれません。もちろん、正に動いていけば大切に使い続けていただきたいのですが、コスト・パフォーマンスが良く時代に合った機材に思い切って買い変えた方がかえって安上がり…なんてこともあると思います。また、軽音楽部が新設されたばかりでの学校や、これから機材を充実させていこうと考えている

学校は、当然ながら低予算でなるべくハイ・クオリティーな機材を揃えたいと思われるのではないのでしょうか。

街の音楽スタジオに行ったことがある方であれば、なんとなくイメージすることができと思いますが、ポピュラー・ミュージックのバンドで演奏する場合、ドラムやアンプ類など、持ち運びが困難なもの、マイクやマイク・スタンドなど、なるべく共用で使って欲しいものが、いわゆる「備え付け機材」となります。

標準的なバンド練習場 1 部屋に必要な機材&備品

ボーカル	ボーカル・マイク … 「ダイナミック・マイク」推奨。マイク・カバー部分のグリルだけ交換可能。コーラス用も必要。 マイク・スタンド … 「ストレート・スタンド」と「ブーム・スタンド」があるが、ブーム・スタンドで転用可能。 マイク・ケーブル … マイク接続側もミキサー接続側も、「XLR 端子 (キャノン・ケーブル)」のタイプを使用。 ボーカル・モニター … 通称「コロガシ」。12 インチ・コーン、600W ほどでも許容。スピーカー・ケーブルも必要。
ギター	ギター・アンプ … コンボ・タイプの「ソリッドステート・アンプ」「デジタル・アンプ」推奨。40W ほどでも許容。
ベース	ベース・アンプ … コンボ・タイプの「ソリッドステート・アンプ」「デジタル・アンプ」推奨。150W ほどでも許容。
ドラム	ドラム・セット … 2 タム、2 クラッシュ・シンバルがスタンダード。ドラム・ヘッド、シンバルは予備も必要。
キーボード	キーボード・アンプ … 「デジタル・アンプ」推奨。80W ほどでも許容。ミキサーとつなぐシールドも必要。 キーボード・スタンド … 「X 脚」タイプ推奨。アルミ・タイプでも許容。
音響	ミキサー … 「アナログ・ミキサー」推奨。最低 6 チャンネルは必要。 PA スピーカー … 「パワード・スピーカー」推奨。12 インチ・コーン、1000W ほどでも許容。スピーカー・ケーブルも必要。
その他	ギター・スタンド … アルミ・タイプでも許容。ギター、ベース共用。 ドラム・マット … カーペット・タイプ推奨。1600mm × 1800mm ほどでも許容。 ドラム・ミュート … バス・ドラムのミュート材。購入しなくても毛布などで代用可能。 延長コード … 3 口以上のタイプを 3 本ほど用意してあると良い。5m 以上推奨。「電源ドラム」でも可。 譜面台 … アルミ・タイプでも許容。穴あきタイプではない方がベター。3 台ほど用意してあると良い。

①ボーカル&ギター ②ギター ③ベース&コーラス ④ドラム ⑤キーボードの場合に必要な機材



ギター／ベース キーボードに 必要な 機材 & 備品

エレクトリック楽器を使用する軽音楽部では、それらを出力するための機材が必要です。最も重要な機材としては「アンプ」が挙げられますが、近年の機材事情は数年前と比べると、その性能も使い方も大きく変わっています。ギタリスト、ベーシスト、キーボーディストの部活動に見合う機材を考えてみましょう。今回はギター本体、ベース本体、キーボード本体、エフェクターは個人で持参するものと考えます。

ギター・アンプ

エレキ・ギターとセットで必要不可欠な「ギター・アンプ」ですが、購入に際し最もポイントとなるのは「出力数（ワット数）」です。アンプ自体の大きさや重さ、価格に反映します。

ギターの音作りをエフェクターで行うことが一般的になってきた現代では、ギター・アンプに求められるのは「クリーン・サウンド」がきれいなことです。以前からトランジスタを使った「ソリッドステート・アンプ」はよく使用されてきましたが、例えば、120WあるRolandのJC-120のような機種も、実際の軽音楽部の練習場には出力が大きいかもしれません。同じシリーズの、ワット数が少ないJC-40くらいの

パワーでも十分に対応できると思います。

しかし、エフェクターを持っていない部員が多かったり、予算を考えた場合には、今後主流になるであろう「デジタル・アンプ」がお勧めです。デジタル・アンプには数種類のプリ・アンプ、パワー・アンプ、キャビネットがモデリングされていて、多くのエフェクターも内蔵しているので、アンプ本体で様々な音作りができます。また、ほとんどの機種はBluetooth遠隔操作、音楽プレイヤー接続、ヘッドフォン接続、DAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）のインターフェイスとしての使用が可能で、まさに現代のギター・アンプです。

ギター・スタンド

ギターの周辺備品で忘れてはならないものが「ギター・スタンド」です。ベースやアコースティック・ギターも含め、ギターは必ずスタンドを使って立て掛けるようにしましょう。机の上や床に置いたり、壁に立てかけたりしておくと、蹴飛ばしたり転倒の原因につながります。

もちろん、なるべく頑丈でがっしりとしたタイプの方が好ましいですが、比較的安価なものでもちゃんと楽器を支えてくれます。バンド練習場に、2本から3本以上は必要だと考えておきましょう。



▲ Roland JC-40 実勢価格：60,000 円（税抜）



▲ Marshall CODE50 実勢価格：30,000 円前後



▲ KC GS103B
実勢価格：1,000 円前後

LOOK OUT!

チューブ・アンプ／スタック・アンプは必要ない？

1970年代以降、ロック・シーンを牽引してきたギター・アンプが、Marshall社に代表されるスタック・アンプです。真空管（チューブ）を搭載したヘッド部とスピーカーを組み込んだキャビネット部がセパレートしているスタック・タイプは、ヘッドとキャビネットの組み合わせを変えたり、キャビネットを重ねたりすることができ、ヘッドとキャビネットが一体化されているコンボ・タイプよりも、ナチュラルな歪みが出て人気でした。

しかし、アンプ自体で音を歪ませて大音量を出していた時代は「今は昔」の話。マイクやミキサー、スピーカーなどの音響機材も格段に進化し、エフェクターやアンプもデジタル化した現代では、繊細で壊れやすいチューブ・アンプや、大きくて重量もあるスタック・アンプは、現代の軽音楽部にとっては少し扱いにくい存在となってしまったかもしれません。



▲ 「ロック」の象徴だったスタック・アンプ

ベース・アンプ

ベースの音を出すためには、「ベース・アンプ」が必要です。ギター・アンプで代用することも可能ですが、ベースらしい低音が出せず、故障の原因にもなるのでお勧めできません。きちんとベース用のアンプを使いましょう。しかし、プロのステージで見かけるとは大きなベース・アンプは、軽音楽部にとっては過度なものだと言えます。環境にもよりますが、練習場で使うのであれば、出力は 150W から 200W もあれば十分でしょう。

ベース・アンプも、ギター・アンプと同じようにヘッド部とスピーカー部が分かれた「スタック・タイプ」と、その 2 つが一体となった「コンボ・タイプ」があります。お勧めはもちろんコンボ・タイプです。近年のベース・アンプには、音楽プレイヤーが接続できる AUX 端子や、ヘッド

フォン・ジャックも付いていることが多く、個人練習用としても重宝します。

ギター・アンプと同じように、ベース・アンプにもデジタル・アンプがあります。複数のアンプがモデリングされ、多くのエフェクターが内蔵されています。



▲ Ampeg BA-1115V2 実勢価格：50,000 円前後

LOOK OUT !

延長コードは必須

一般教室でも視聴覚室のような部屋でも、ポピュラー・ミュージックのバンド練習をするには、アンプをコンセントにつながなくてははいけません。アンプを設置する場所にもよりますが、ほとんどの場合「延長コード」や「電源ドラム」が必要となります。エフェクターを使ったりすることも考えて、延長コードはメンバー 1 人に 1 本と考えておきましょう。もちろん、個人で用意すべきものとしておくのも良いと思います。



▲ 3 口、5m あれば安心

キーボード・アンプ

エレクトリック・ピアノやシンセサイザーのようなキーボードは、スピーカー内蔵の機種もありますが、バンドで合奏する時にはギターやベースと同様、アンプを使って音を出します。

方法としては 2 種類あり、キーボード本体とキーボード・アンプをつないでギター・アンプのように使う方法と、キーボード・アンプのアウト・プットからミキサーにつなぎ、キーボードの音を PA スピーカーから出す方法です。後者の場合、キーボード・アンプは自分の演奏を聴くモニター・スピーカーとして使用し、PA スピーカーの音量はミキサーで調節します。

キーボードに内蔵されている音源は、基本的にステレオで鳴らすようにできているので、できればシールド・ケーブルを 2 本ずつ使って、ステレオで出力しましょう。



▲ Laney AH80 実勢価格：20,000 円前後

キーボード・スタンド

キーボードを演奏する際には、キーボード・スタンドが必要です。机や台の上において演奏することも可能ですが、いざステージに立つ時にそれでは見栄えも良くありません。また、ライブで突然高さが変わると弾きにくい場合もあります。立って演奏するのか、座って演奏するのかも含め、普段からいつも同じ高さで弾くためにキーボード・スタンドは必須です。

キーボード・スタンドには様々な種類がありますが、楽に高さ変更ができる「X 型」がお勧めです。高さ変更が簡単だと、部活動で複数の部員が使い回す時にとても便利です。近年では、丈夫で軽く、折りたたんで持ち運びやすいスタンドも多く発売されています。キーボードを 2 台重ねてセッティングすることが多い場合は、拡張アダプターを取り付ければ可能です。



▲ HERCULES KS120B 実勢価格：5,000 円前後

キーボード用備品

キーボード関係の備品は他にもあります。まずは、キーボードをアンプやミキサーにつなぐ「シールド・ケーブル」です。キーボードとアンプをつなぐケーブルは、ギタリストやベーシストのように個人で持参し、キーボード・アンプとミキサーをつなぐケーブルは備品とすることが多いようです。7m 以上は必要でしょう。

また、「サステイン・ペダル」や「イス」も必要となる場合があります。ペダルは、キーボード本体と同じメーカーのものでないと正常に作動しないことがあります。イスは、クルクル回して高さを簡単に変えられるドラム・スローンがお勧めです。



▲シールド・ケーブル

▲イス

▲サステイン・ペダル

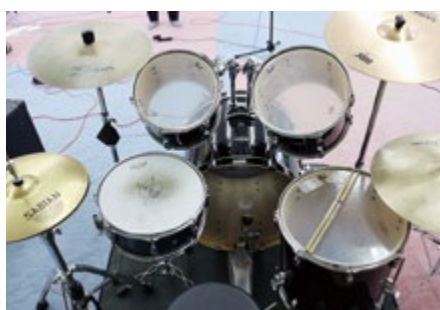
ドラムに必要な 機材 & 備品

ドラム・セットは、複数の太鼓やシンバルが1つの楽器として組み上がっているため、後から個別の変更や付け足しが可能です。セットは、リズム・パターンを叩くバス・ドラムとスネア・ドラム、ハイハット・シンバルの3点に、シンバル、タムタム、スタンド類がセットになったものがスタンダードです。しかし、材質や価格、大きさに幅があるドラム・セットのセレクトは悩みどころです。

ドラム・セット

現在の一般的なドラム・セットでは、バス・ドラムの上に2つのタムタムがある「2タム」スタイルが標準として販売されています。また、ドラム・セットの各楽器には様々なサイズがありますが、時代によって口径や深さに流行が見られます。現在ではバス・ドラムが22インチ、タムタムが10×7インチと12×8インチという大きさがスタンダードです。タムタムは、一昔前から比べると小ぶりになっていますが、女子の多い軽音楽部ではちょうど良いかもしれません。バス・ドラムにも小さめの20インチ、18インチなどもあり、日本人にはその大きさが十分だという説もありますが、大会などでは22インチが使用されることがほとんどなので、現段階では22インチがおすすめです。

シンバルは、16インチと18インチのクラッシュ・シンバルがそれぞれ1枚ずつ、20インチのライド・シンバルが1枚、14インチのハ



▲一般的な2タムのセッティング

イハット・シンバルが1組(2枚)というのが一般的です。必然的に、シンバル・スタンドが3脚、ハイハット・スタンド1台が標準セットになります。市販のセットでは、シンバルが別売だったり、クラッシュ・シンバルが1枚だったりすることもあります。予算に余裕があれば、追加で揃えておきたいところです。

基本的なセットには、他にスネア・ドラムとキック・ペダルも付属しています。

ドラム・セットの価格差は、主に胴体部「シェール」の材質、及びプライ数の違いが大部分を占めます。標準的なドラムはメイプル、バーチ、ビーチ、ポプラなどの木材を使用していますが、それらを何枚重ねているのがプライ数です。しかし、種類の違う木材を何層にもサンドイッチしていたり、加工処理の違いでもかなり差はあるので、一概にどれがベストかは言えません。プライ数も、時代によって流行があるので、あまり気にしないで良いでしょう。

最も安価なのがポプラ材ですが、かつてはほとんどのドラムがポプラ材で作られていた



▲シェルの内側

ほどポピュラーな材なので、軽音楽部の練習用にも問題なく使用できます。

ドラム・マット

ドラム・セットをセッティングする時には、滑り止めと床を傷つけないように下にマットを敷きます。一般教室を練習場に行っている場合は必需品です。ゴム製、ウレタン製、カーペット、絨毯など材質には様々ありますが、演奏中にズレてしまわないような少し重めのがベストです。大きさは、ドラム・マット用と記載されていれば問題ないと思いますが、電子ドラム用だとセット全体が乗らないので注意が必要です。少なくとも1600mm×2000mmはあった方が良いでしょう。



▲YAMAHA DM2016 実勢価格：12,000円前後



▲TAMA Imperialstar 実勢価格：80,000円前後

シンバルの買い替え

販売されているドラム・セットでは、当然ながら比較的安価なセットにはクオリティーが低いシンバルが付属されています。クオリティーが低いとは、単にサウンドが良くないというだけでなく、割れやすかったり、柔らかく曲がりやすかったりという「丈夫さ」にも関わってきます。しかし、ある程度のクオリティーがあるシンバルでも、使っていれば割れてしまうものなので、消耗品だと思っておきましょう。

シンバルを買い換えるのであれば、価格と品質の安定度から3大シンバル・メーカーのものを選んだ方が無難です。それは、ジルジャン (Zildjian)、セイビアン (Sabian)、パイスティ (Paiste) の3社です。もちろん、ハイ・エンドなクラスからロー・エンドなシリーズまで

ラインアップされていますが、「厚み」も選ぶ際のポイントです。厚みを示す表記には、シンバルの重さを兼ねて、シン (Thin)、ミディアム (Medium)、ヘヴィー (Heavy) といった分け方をしていますが、共用備品にはミディアム程度のもので良いでしょう。

また、金属の塊から成形する「キャスト・シ

ンバル」よりも、金属シートを成形して作る「シート・シンバル」の方が一般的です。大量生産型ですが品質が悪いわけではありません。

シンバルは、管理の仕方によっても寿命が変わります。倉庫などに片付ける場合は、シンバル・ケースに入れて保管しましょう。



▲ Zildjian zbt 16インチ・クラッシュ
実勢価格：11,000 円前後



▲ シンバル・ケース. PROTECTIONRACKET 6020
実勢価格：10,000 円前後

ドラム・ヘッドの交換

ドラム・ヘッドは消耗品です。本来であれば半年に1度は交換したいところですが、ドラム・セットすべてのヘッドを交換すると、かなりコストがかかってしまいます。とはいえ、使っていれば凹んでしまったり破れてしまったりするので、必ず交換が必要になります。せめて各ドラムの打面ヘッドだけは、いつでも交換できるようにストックを用意しておきましょう。乱暴な言い方をすれば、裏面のヘッドはほとんど交換しなくても大丈夫です。

ドラム・ヘッドには様々な種類がありますが、耐久性を考えた時のポイントはやはり「厚さ」です。一般的には、比較的薄手のアンバサダー (Ambassador) や、厚めのエンペラー (Emperor) が標準ですが、共用のドラムであれ

ばエンペラーの方が良いでしょう。また、構造の違いとして、透明なフィルムが1重のもの、2重のもの、中央部にもう1枚フィルム (ドット) が付いたものなどがあり、そのすべてにコーティングを施した「コーテッド (COATED)」タイプがあります。タムタム用であれば、2重のエンペラー・ヘッドにさらに外周フィルムを装着した「ピ

ンストライプ (PINSTRIPE)」スネア用であれば、中央部にもう1枚フィルムを加え、コーティング加工を施した「CS コーテッド」がお勧めです。値段は、加工の多さと口径の大きさに変わりますが、タムタム用であれば、1枚2,000円から3,000円ぐらいが標準です。口径のインチを間違えないように注意してください。



▲ REMO PINSTRIPE 実勢価格：3,000 円前後



▲ REMO CS COATED 実勢価格：2,500 円前後

LOOK OUT !

バス・ドラムのミュートを忘れずに！

ロック・ミュージックのドラムの場合、楽器が共鳴することをあえて防ぐ場合があります。それは、合奏する時に他の楽器と音の分離をはっきりさせるためであり、打楽器としての出音をより「タイト」にしたいからです。

特にバス・ドラムは、そのまま演奏すると「大太鼓」のように共鳴して部屋中に鳴り響いてしまいます。打点がわかりやすく締まった低音を出すには、バス・ドラムの中にミュート材

を入れることが一般的です。本来は、サウンドも考慮して材質や量、設置の仕方などを考えるべきですが、最も効果的で軽音楽部に見合ったミュート方法は、「毛布」を入れることです。使わなくなったブランケットや座布団などでも構いません。バス・ドラム用のミュート材もいくつか販売されていますが、学校中を探せばきっとおあつらえ向きのミュート材が見つかるでしょう。



▲バス・ドラムのミュートは必ず行おう

ボーカルに必要な 機材 & 備品

軽音楽部では、楽器を演奏しながらボーカルをとったりコーラスをすることが多いと思います。こういった場合でも、バンドの中で歌うためには、ボーカル用のマイク、マイク・スタンド、マイク・ケーブルが必要な備品として挙げられます。さらには、ミキサーやスピーカーなどの音響機器、そして、それらをつなぐためのスピーカー・ケーブルといった周辺機材も必須となります。

マイク

ボーカル・マイクには様々な種類があり、それぞれに特性が違います。本来であれば、他の楽器のように個人個人で好みのタイプを持参するようにしても良いと思いますが、現在では大会やイベントなども含め、ほぼ SHURE 社の SM58 という同じ機種を使用しています。備品として揃える共用マイクは、SM58 にしておいた方が良いでしょう。仮に、衛生面なども考慮してボーカリスト部員にマイク購入を勧める場合も、SM58、あるいは特性が同じタイプの「ダイナミック・マイク」にしておいた方が、トラブルも少ないでしょう。

コーラスをするメンバーもいると思うので、1 部屋に 3 本ほど用意しておく心安心です。



▲ SHURE SM58 実勢価格：10,000 円前後

マイク・スタンドには、「ストレート・タイプ」と「ブーム・タイプ」がありますが、基本的には兼用できるので、すべてブーム・タイプで OK です。なるべく重く安定性の良いものを選びましょう。「マイク・ホルダー」が別売りだったり、メーカーによって接続ネジの大きさが違うので注意してください。



▲ CLASSIC PRO MIX050
実勢価格：1,200 円前後

▶ KC MBCS
実勢価格：3,600 円前後

ボーカル・モニター

ライブを行う際、ほとんどの場合、ボーカリストの足元には「モニター・スピーカー」があります。自分の声がしっかりと聴こえないと喉に負担をかけ、音程も甘くなります。

必須ではありませんが、余裕があれば練習場にも用意して慣れておきましょう。特に、キーボードやアコースティック・ギターの音を PA スピーカーから出す場合は、なおさらです。



▲ BEHRINGER VP1220F EUROLIVE
実勢価格：17,000 円前後

LOOK OUT !

譜面台を活用しましょう !

バンド練習には「譜面台」が必要です。とは言え、軽音楽部では吹奏楽部などのようにメンバー全員が演奏中、譜面にかぶりついて見るわけではないので、そんなに本数は必要ないかもしれません。

しかし、ボーカリストが歌詞カードを見ながら歌ったり、演奏を録音するための機材を置いたり、使用頻度が多いものです。特に、ボーカリストがまだ歌詞を覚えていない場合、片手にスマートフォンを持ちながらでは良い練習になりません。せめて譜面台に置いて

た方が、メンバーとのコミュニケーションが取りやすくなります。

折りたたみ式のタイプでも十分ですが、余裕があれば少し丈夫できれいに収納できるものを選んでおいた方が良いでしょう。



▲ OHASHI MS114FN 実勢価格：7,000 円前後

マイク周辺機材

マイクの接続には、通称「キャノン・ケーブル」と呼ばれる、楽器に使うものとは異なった XLR 端子のケーブルを使います。長さは 5m あれば問題ないと思いますが、楽器を演奏しながら歌う場合を考えて、7m も数本用意しておいた方が良いでしょう。1 バンドに 5m を 2 本、7m を 1 本が目安です。

音響機材 & 備品

基本的な練習場の場合、ドラムはそのまま生音で演奏し、ギターとベースは、それぞれアンプにつないで音を出します。しかし、ボーカルやキーボード、アコースティック・ギターなどは音響機材を使って音を出します。必要な機材は「ミキサー」「スピーカー」「パワー・アンプ」の3つです。現在では、軽音楽部の練習場に見合った「アナログ・ミキサー」と「パワード・スピーカー」がお勧めです。

ミキサー

マイクなどをつなげて音を補正し出力する「ミキサー」は、現在ではアナログ・タイプが主流です。販売時には、「アナログ・ミキサー」と明記されています。他には、パワー・アンプ内蔵の「パワード・ミキサー」、デジタル仕様の「デジタル・ミキサー」などがありますが、普段の練習に使う程度であれば、パワードやデジタルでなくても十分です。

ミキサー選びの大きなポイントは、入力可能な「チャンネル数」です。ボーカル・マイク1本しかつなげないのであれば、単純に1チャンネルで済むわけですが、キーボードやコーラ

ス・マイクなどもつなげることを考えると、6チャンネル以上はあった方が良いでしょう。正確には、ボーカルやコーラスのマイクはXLR端子のモノラル、キーボードはステレオで入力するのであれば、モノラル4チャンネル、ステレオ2チャンネル以上を備えた機種が良いでしょう。

また、ミキサー本体に数種の「リバーブ」や「ディレイ」といったエフェクターが内蔵されているタイプを選んでおくと、ボーカルやアコースティック・ギターなどに好みのエフェクトをかけることができます。特に、エフェクターにあまり興味がないであろうボーカリストも、ミキサーに内蔵され

たものを触っていくうちに、音色への興味も湧いてくると思います。



▲YAMAHA MG10XU
実勢価格：25,000 円前後

PA スピーカー

ミキサーから送られてきた電気信号を音に出す「PA スピーカー」は、パワー・アンプを内蔵していない「パッシブ」タイプと内蔵している「パワード」タイプに分かれます。パッシブ・タイプの場合は、ミキサーがパワードであるか、別途パワー・アンプが必要になるので、手間と拡張性を考えるとパワード・タイプがお勧めです。一般教室であれば、出力は1000W、コーンの大きさは12インチあれば十分です。ステレオで出すために1部屋に2台必要です。

パワード・スピーカーは、接続が簡単で専門的な知識も少なく済み、スピーカーの増設やケーブルの延長が簡単です。しかし、個別に電源を取らないといけないうことや、比較的重いこと、言わばオール・イン・ワンなので、どこかが故障したらすべてに影響してしまうといった点がデメリットとして挙げられます。

PA スピーカーは、机の上などにおいても構いませんが、スタンドを使用して高くした方がよく聴こえます。近年では、安価なアルミ製で、軽量、高強度の機種も多くなっています。

スピーカー・ケーブル

PA スピーカーやモニター・スピーカーは、ミキサーと「スピーカー・ケーブル」で接続します。

注意したいのは、接続端子の規格です。一般的な端子の種類には、XLR、標準フォン・ジャックの他に、「スピコン」と通称される専用のコネクタがあります。複数の種類で接続が可能な機種もありますが、ミキサーのアウト・ブット側も調べて、規格に合うケーブルを選びましょう。

長さは、メンバーの立ち位置や、ミキサーとPA スピーカーの設置場所などの環境にもよりますが、7m から 10m は必要です。



▲JBL EON612
実勢価格：50,000 円前後



▲K&M 21436
実勢価格：7,000 円前後



▲CANARE SC10-NL
実勢価格：6,000 円前後

騒音問題を解決する機材

軽音楽部の最大の問題は、音の大きさです。学校によっては「騒音」として軽音楽部のネガティブな要素に捉えられることも多いと思います。特に、吸音や消音の設備がない一般教室でバンド練習を行っていると、校舎中に響き渡ってしまいます。なるべく小さな音量で演奏しようとしても、通常のままでは完全消音は不可能です。そんな騒音問題を解決するには、いくつかの機材と新しい発想が必要です。

学校や近隣からの「音がうるさい」というクレームは、軽音楽部にとって大きな問題です。「吹奏楽部は良くて、なぜ軽音楽部は…」と嘆いていても始まりません。逆に、軽音楽部の強みである「エレクトリック楽器」を使用していることを生かし、前向きに取り組みましょう。

電子ドラム

バンドの中で最も音量のコントロールが行いにくく、大きな音を出すのが「ドラム」です。ドラムは、アンサンブルの土台となるアコースティック打楽器なので仕方ないことですが、振動とともに遠くまで鳴り響く音は、やはり騒音の大きな要因です。しかし、この問題はドラムを「電子ドラム」にすることで解決します。電子ドラムの音を出すためには、キーボードなどと同じようにミキサーにつなげるので、音量の調節を容易に行うことができます。

発売から数十年が経ちながら、ポピュラー・ミュージックのバンドでは未だにあまり市民権を得ていない電子ドラムですが、軽音楽部とい



▲電気楽器、電子楽器、デジタル機材を使う軽音楽部だからこそ、騒音問題を解決できる

う環境においては、かなり重宝する機材だと思います。そのメリットは、音量を抑えられるだけではありません。アコースティック・ドラムと比べて重量も軽くコンパクトなので、持ち運びやセッティングが簡単なこと、拡張性があり、音源モジュールだけをグレード・アップさせる

ことができるので、結果的にコスト・パフォーマンスが良くなること…などが挙げられます。最も大きな利点は、アコースティック・ドラムでは行いにくかった、メトロノームや楽曲の音源に合わせながら行う個人練習が、休み時間や部活動の空いている時間に簡単にできるということです。自宅ではなかなか練習ができないドラマー部員には朗報でしょう。もちろん、ヘッドフォンを使用すれば周囲への音もうるさくありません。

アコースティック・ドラムと価格は変わらないので、理想は、アコースティック・ドラムと併用す

ることです。現在では、まだ大会やイベントなどでもアコースティック・ドラムが主流なので、「電子ドラムしか叩いたことがない」というのは、マイナスに働きます。例えば、ドラム・セットを3台購入するのであれば、1台を電子ドラムにするなどの導入方法が望ましいかもしれません。

電子ドラムは、心臓部である「音源モジュール」、実際に叩く「パッド」、組み立てるための「ハード・ウェア」でできています。それぞれは個別に増設やアップ・グレードが可能です。メーカー同士の互換性が今のところないので、複数台購入する際や後から増設する場合は、同じメーカーの機種で揃えましょう。

また、ほとんどの場合、キック・ペダルやイスは別売りなので注意してください。ペダルは個人のものを使うとしても、イスは購入しておきましょう。加えて、電子ドラム用のドラム・マットも必要です。音は静かでも、叩いた時の振動はあるので、マットを敷くことによってかなり軽減されます。セットにもよりますが、小さな1300mm×1400mmでも十分です。



▲Roland TD-1DMK 実勢価格：74,000円（税抜）／ペダルは別売り

マルチ・エフェクター

ドラム以外の楽器も「うるさい」のがバンド・サウンドです。ギターは音を歪ませ、ドラム演奏に負けないような大音量をアンプから出します。ベースは一見おとなしく静かなように見えますが、低音が壁をつたってギターよりも校舎に響き渡っていきます。バンド練習では、窓やカーテンを閉め切る、ドラムをミュートする、アンプは小型のものをを使って置く場所や向きを考える…といったことで対策を練るしかありませんが、ギターやベースがパート練習や個人練習をしようとした時にも、同様の、あるいはそれ以上の騒音問題が起こります。

ギターやベースの個人練習用に、10W 程度の小型アンプを複数台揃えている学校もあると思います。あるいは、数年前に評判となった楽器のジャックに挿すタイプの「アンプ・シミュレーター」を使って、個人練習をしている部員もあるかもしれません。しかし、近年ではデジタル化が進み、ギターやベースが「音を出す方法」「音を作る方法」も様変わりしてきました。

現在は、アンプ・シミュレーター、エフェクター、チューナー、ルーパー、メトロノーム、USB 端子など、様々な機能が内蔵された「多機能マルチ・エフェクター」が人気です。中には、コンパクトで低価格な機種もあり、個人練習からバンド練習、ライブにまで使える便利さと性能に注目が集まっています。

マルチ・エフェクターを使用すれば、ギターリストやベーシスト各自が、空いた時間にヘッドフォンを使って練習や音作りができるようになります。部活動でのパート練習にも使えるので、初めてエフェクターを触る新入生のために備品として何台か揃えておいても良いと思いますが、自宅での個人練習や音作りもサイレントででき、アンプにつなげばそのままバンド練習やライブをすることができるので、個人での購入がおすすめです。



◀ ZOOM G1FOUR
実勢価格：7,380 円（税抜）



◀ ZOOM B1FOUR
実勢価格：7,380 円（税抜）



▲小型アンプでのパート別個人練習も、マルチ・エフェクターを使用することで静かに集中してできるようになる

LOOK OUT !

「デジタル・ミキサー」でバンド練習をスマートに！

数年前からミキサーもデジタル化が進み、近年、一般向けに販売されるようになりました。「デジタル・ミキサー」には、複数のヘッドフォン・アウトが付いている機種もあり、電子ドラムを使うという条件下ではありますが、ギターやベースもつないで全員がヘッドフォンをすれば、ボーカルの生声以外は無音でバンド練習をすることが可能になります。ヘッドフォン内では、楽器それぞれの音がクリアに聴こえ、各自が自分の好きなパート・バランスをモニターとして作ることができるので、演奏に集中し、より綿密なバンド練習を行うことができます。

また、デジタル機器にはメトロノームをはじめ、トレーニング・モードや録音&プレイバック機能などが内蔵されている機種もあります。通常のバンド練習では、例えば、メトロノームを使った練習をしようすると、セッティングに時間を取られ、大きな音量で鳴ら

すためスピーカーの故障にもつながりかねません。しかし、こういった機種を使うと、全員のヘッドフォンにメトロノームを流すことができます。もちろん、音量は各自で調整可能です。さらに、バンド練習にとって大事な「演奏を録音して聴き返す」ことも、録音機材を用意することなくその場で簡単にできてしまいます。いわゆる「時短」された、スマートで効果的な練習が可能となるのです。今までの常識から発想を変え、かつての「バンド」のイメージを払拭するだけで、騒音問題が解決するだけではなく、新しい軽音楽部のスタイルが見えてきます。

価格はアナログ・ミキサーと比べると倍近くかかってしまっていますが、バンド練習だけではなく、ライブやレコーディングにも使えるポテンシャルを考えると、決して高い買い物ではありません。軽音楽部で 1 台持っておくと重宝すると思います。



▲ ZOOM LiveTrak L-12 実勢価格：62,500 円（税抜）



▲サイレント&スマートが次世代の軽音楽部の姿！

ライブ&レコーディングに必要な機材&備品

それぞれのバンドがまとまってきたら、次のステップは「ライブ」や「レコーディング」です。それらを行うためには、状況や目的によって使用機材の規模が変わってきます。その規模によっては、追加で購入しなければならない機材もあります。今回は、どちらも普段練習で使っている機材にプラス・アルファして行える規模のケースで考えてみましょう。

ライブ

バンド活動の経験や音響機材の知識があまりないという方は、ライブを行うためにはどんな機材が必要なのか、コストはどれぐらいかかるのか…と、不安になられているのではないのでしょうか。

ステージや客席が広がると、音を劣化させないための「DI（ダイレクト・インジェクション・ボックス）」、お互いの音が聴こえやすくなるための「モニター・スピーカー」などが必要になります。さらには、ドラムやアンプに立てるマイクやマイク・スタンド、入力数に応じたチャンネル数を持つミキサー、より大きなPAスピーカー、そして、それらをつなぐ各種ケーブル類なども購入しなければなりません。

しかし、実際には文化祭や合同発表会など、一般教室や視聴覚室、音楽室ぐらいの広さのライブであれば、普段使用している機材を客席側に向けて並べるだけで十分行えます。とは言え、他校に演奏会で出向いた時や大会に出場した際に、知らない機材に初めて触れて驚かないように、ライブで使う機材を「知識」として知っておいた方が良いでしょう。

DI（ディー・アイ）

ステージとミキサーの距離が離れている場合、ベースやキーボードの音は「DI」を通してミキサーに送ります。DIを通すことでサウンドにノイズが乗りにくくなるからです。普段の練習では必要ない機材ですが、ライブのステージでは使用することが多いので覚えておきましょう。

バンドの中で、一般的にDIを使用する楽器は、ベース、キーボード、アコースティック・ギターなどです。キーボードはステレオで音を出すので、1台にDIを2つ使います。DIを使う場合、ベース・アンプやキーボード・アンプの音はマイクで



◀ 軽音楽部でライブを行うには様々な機材&備品が必要

拾わないので、音作りはDIにつなぐ前の楽器本体やエフェクターで行います。ベースはアンプにもマイクを立ててミックスする場合もありますが、基本的に「アンプは、自分の音をモニターするためにある」と考えましょう。



▲ Boss DI-1 Direct Box 実勢価格：11,000円前後



▲ ベース用DI。インプットにつなぐ

モニター・スピーカー

大きな会場のステージでは、ボーカル以外のパートも「モニター・スピーカー」を使います。メンバーとの距離が離れていると、お互いの音が聴こえにくく演奏しづらくなってしまいます。そのため、ミキサーに集めている楽器の音をメンバーそれぞれに返します。ステージの広さやミキサーのスペックによって使用できる数が少なくなる場合もありますが、基本的にはメンバー全員、1人に1台使います。

モニターは、本番前に行う「サウンド・チェック」の時間にメンバーそれぞれが音響スタッフへ注文を出し、自分が演奏しやすいバランスを作り



▲ モニター・スピーカーは大きな会場では必須

ます。普段使っていないと、どんなバランスが演奏しやすいのか、どういう言い方をすれば音響スタッフに希望が伝わるのか…などがわからず、せっかくの便利な機材も有効に使うことができなくなってしまう。

特に、ステージ上でモニター・スピーカーからしか自分の声を聴けないボーカリストにとって、歌しやすいモニター・バランスを作れるかはとても大きな問題です。普段の練習からモニターを使って慣れておきましょう。

デジタル・カメラ

部活動の備品として、三脚と共に「デジタル・カメラ」を1台揃えておくと、しっかりと資料画像&映像を残すことができます。現在では、スマートフォンでもきれいな写真や動画が撮れますが、お勧めは小型で軽量の「デジタル・カメラ」です。練習やライブ本番を撮影して反省会を行えば、見た目を意識するようになって、ステー

ジングが変わっていくでしょう。

備品のカメラであれば、撮影した写真や動画をパソコンにつないで編集したり、外付けのHDDやSSD、クラウドに保存しておくことができます。映像を部員と共有したり、歴代の部員たちの演奏をストックしておくことも可能です。自前のスマートフォンや部員の端末を、学校や個人のパソコンにつなぐのは危険です。

LOOK OUT!

「照明」はポピュラー・ミュージックの醍醐味です！

クラシック音楽とポピュラー・ミュージックの大きな違いは、ライブが「演奏会」なのか「ショー」なのかにあります。ポピュラー・ミュージックのライブは、音楽を聴かせるだけではなく、ショー・アップされたステージを見せるという側面もあります。実際に、大会などでも演奏の良し悪しだけではなく、「ステージングでどれだけ観客を魅了できたか」も審査のポイントになることがほとんどです。

そんな軽音楽部のライブ・ステージをさらにショー・アップさせるのが「照明」です。近年ではLED仕様のコンパクトな「モバイル照明」も低価格で発売されています。ステージ上のメンバーがフット・スイッチで操作することができたり、調光卓も揃えれば色の組み合わせをプログラムすることもできます。小さなステージで活躍する照明は、これからの軽音楽部には欠かせないアイテムとなるかもしれません。



▲ e-lite TD-1610
実勢価格：20,000円（税抜）

▲ e-lite LED Power Party Bar 実勢価格：24,000円（税抜）

レコーディング

バンドの演奏を披露する場所はライブだけではありません。近年では、校内でレコーディングを行っている学校も増えてきています。とは言え、プロ・レベルな機材や環境は必要なく、部活動で所有している機材にプラス・アルファの備品を揃えれば、部活動に見合ったレコーディングが可能です。

レコーディングを行うと、「良いものを残したい」と熱心に練習に取り組んだり、普段では味わえない緊張感が体験できます。また、雑に行ってきたことが露呈するため、バンドの演奏も楽曲のまとまりもレベル・アップします。

パソコン／DAWソフト

レコーディングに必要なものは、まず「パソコン」です。スペックにもよりますが、よほど古いものでなければデスク・トップ型でもノート・ブック型でも行えます。2020年5月現在であれば、プロセッサは「Core i5」以上、メモ

リは8Gbit以上であれば問題ないと思います。パソコン本体やOSは、WindowsでもMacでも大丈夫です。普段使い慣れている方が良いでしょう。学校用に個人のパソコンを使用することは賛成できません。共用の備品として1台用意した方が、写真や動画の保存、編集などにも使えて便利です。

パソコンでレコーディングを行うには、音楽制作ソフト（DAWソフト）が必要です。DAWソフトは「Cubase」「Logic」「Pro tools」など、プロ・ユースのものから一般向けまで様々ですが、WindowsとMacとでは、パソコンのOSの違いで対応できるソフトが違うので注意してください。どのソフトが良いかは一概には言えませんが、ほとんどの場合、アカデミック版が用意されています。手始めであれば、iPhoneやMac純正のアプリ「GarageBand」でも十分に行えます。

オーディオ・インターフェイス

ボーカルや楽器の演奏を、パソコンのDAWソフトにレコーディングする際に必要になるの

が、入力された音をオーディオ・ファイルに変換する「オーディオ・インターフェイス」です。もちろん、グレードが高い機種の方が、より良い音で録音することができますが、サンプリングレートが44.1kHz、ビットレートが16bit以上であれば問題ありません。予算に余裕があれば、高い数値の機種の購入がお勧めです。

購入する際は、使用するパソコンのOSで使えるか、USBの端子タイプはパソコンと合っているか、ハイ・インピーダンスの入力ジャックは付いているか…などの確認をしておきましょう。ほとんどの機種には、簡易的なDAWソフトが付属しているので、まずはそのソフトを使用して始めてみても良いでしょう。



▲ Steinberg UR22mkII 実勢価格：15,000円前後

iPhoneでできる 高音質／高解像度の映像撮影



演奏上達の秘訣は自分たちの演奏を客観的に見て、知ることです。そのためにはビデオで撮ってみるのが一番でしょう。また、昨今では都道府県大会などの予選審査として、演奏動画が求められるケースも増えてきています。そこで、今回はiPhoneを使い、できるだけ簡単に、かつ良い音で演奏動画を撮影する方法を紹介します。

協力：加藤学園高等学校 フォークソング部

演奏は映像に残そう

日常のちょっとした風景や面白い現象を記録するために、iPhone のカメラ機能を使っている人は多いでしょう。軽音楽部の活動ではライブの風景を動画として残しているケースも多いと思いますが、普段のバンド練習の風景などを「撮影」している学校は、まだ少ないのではないのでしょうか。

冒頭でも紹介した通り、楽器の演奏技術を磨く上で自分の演奏を客観的に聴くことはとても大切です。というのも、演奏中は自分が演奏するのに夢中だったり、大きな音を鳴らすこと自体に気持ち良くなってしまい、自分がどんな演奏をしているのか、そして、バンド全体がどのようなアンサンブルを奏でているのかを冷静に見るのは意外と難しいもの。つつい「弾けているつもり」になってしまいがちです。

それを防ぐ、一番簡単な方法は演奏風景を動画として撮ってみることです。音声だけでも良いのですが、きれいな画質で撮影ができる iPhone で映像で撮ってみましょう。音だけではなく、弾いているフォームや姿勢も確認できるので、プレイ

中の自分が観客からどんな風に見えているのか客観的に見ることができます。また、日常的に撮影を繰り返していくことで、成長の記録を残すことができます。「先月よりもうまくなった！」ということが自分で実感できれば、練習のやりがいにもつながります。

都道府県大会に挑戦しよう

最近では、都道府県大会で音源や演奏動画審査が行われることも増えてきているので、普段から動画を撮ることに慣れておくことで余裕を持って取り組むことができます。

この時に大切なのは、動画のクオリティーよりも演奏や大会に向き合う姿勢です。レコーディングや動画撮影というと、高価な機材や専門知識がないと良いものは作れない…そんなイメージを持ててしまいがちですが、決してそんなことはありません。予算がなくても、手の届く機材とちょっとしたアイデアや工夫で十分に良い作品を作ることができるはずです。

何よりも、そういった本気の姿勢で取り組めば、普段の練習や演奏も変わり、それは必ず結

果にも結びつくでしょう。

課題はマイクにある

iPhone で動画を撮ることは、誰でもすぐに行えると思いますが、いざ演奏を撮ってみると「あれっ？」と気付くはず。iPhone のカメラは高性能で、映像はとてもきれいに撮れるのですが、問題は「音声」です。iPhone で録った音声は音が割れ、多くの場合、ドラムが大きくてボーカルが聴こえない…という状態になっています。これは市販のビデオ・カメラを使う場合でも同じです。音楽の主役はあくまでも「音」なので、その音の本来の魅力を伝えられないのはもったいないですね。こんな状態では演奏の細かい部分までチェックするのは難しくなってしまいます。何より、少しでも良い状態で聴きたいですね。

音割れなどの原因はマイクの性能に対して、バンド演奏の音が大きすぎることです。そもそも iPhone やビデオ・カメラのマイクは爆音のバンド演奏を録音することを想定していないため、これは仕方ないことなのです。逆に言えば、マイクの問題さえ解決すれば、iPhone でも音割



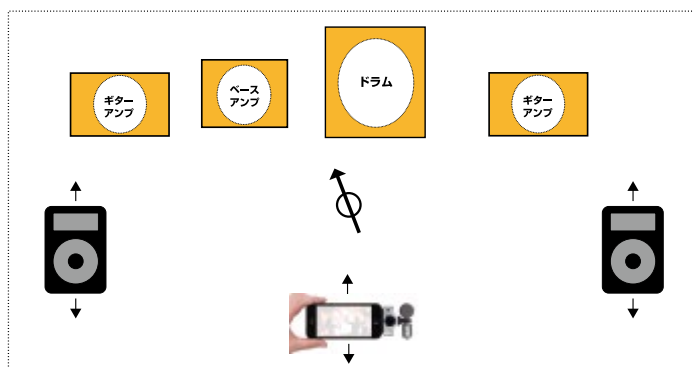
▲ iOS デバイス用のマイク iQ7。Lightning コネクターを搭載した iPhone や iPod Touch、iPad で使用できます



▲ iPhone を固定するためのスマートフォン・ホルダー（左）とマイク・スタンドに取り付けるための変換ネジ（右）



▲この3点のセットは軽音協ショップで販売中ですので、ぜひチェックしてください www.keionkyo.shop



◀楽器ごとの音量調整ができれば、PAスピーカーやマイク (iPhone) の位置を前後に動かして、ボーカルがしっかりと聴こえる位置を探っていきましょう

れない演奏動画を撮影できるということです。ここでは、ZOOMのiOSデバイス用マイク「iQ7」を使っていきます。iOS用のマイクはいろいろ販売されていますが、音楽を撮る場合は楽器メーカーの製品を選ぶのが安心です。

マイク・スタンドに設置する

これで音割れの問題は解決できましたが、ただ撮っただけでは各パートのバランスは悪いまま。ドラムばかりが大きく聴こえて、ボーカルは聴こえない…なんて具合になっていることでしょう。次に、これを改善していきます。

まずは位置を調整したり、セッティングしやすくするためにスタンドに固定しましょう。スマートフォン用のスタンドも販売されていますが、意外と高価です。そこで提案したいのが「スマートフォン・ホルダー」と「変換ネジ」を組み合わせて使うことで、iPhoneをマイク・スタンドに設置する方法です。

部屋にカメラ用の三脚がある場合は変換ネジは不要ですが、マイク・スタンドの方が高さや位置の微調節がしやすく、何より部屋に必ず用意されていると思いますので、こちらを使うのが良いでしょう。

すべてはバランスだ！

iQ7の場合、1台 (2本) のマイクで録音しているので、録音後に各楽器の音量バランスを個別に調整することはできません。そのため、収録時に音楽的にバランスの良い音量レベルで演奏することが必要になります。ここで言う「バランスが良い」とはライブPAのように、その場でどう聴こえているかよりも「実際に録音される音がどうか」を意識する必要があります。

これに関しては明確な正解があるわけではないので、演奏し、録音結果を確認し、それを反映してまた録音…という試行錯誤を繰り返さなくてはなりませんが、いくつかコツを紹介します。

ボーカルがドラムやアンプの音に埋もれてしまい、聴こえにくいというケースが多いと思いますが、これはボーカルが小さい、またはその他の楽器が大きすぎるのが原因です。

ボーカルの音量を基準に、他の楽器の音量を調整していきます。まずはPAでボーカルを適切なレベルで鳴らし、そこに合わせてドラムを追加。最後にギターやベースの音量を合わせていくようにすると良いでしょう。どうしてもボーカルが小さくなってしまう場合はiPhoneとPAスピーカーの位置を近づけると、それだけPA (ボーカル) の音量が大きくなります。ドラムは音量調節が難しいと思うので、もし音量が大きすぎると感じたなら、いつもより力を抜き気味に叩くような工夫が必要かもしれません。場合によっては、メンバーよりもPAスピーカーを前に出すのも有効ですが、距離が離れすぎると、自分たちの音が聴こえにくくなったり、部屋の特性によって音の輪郭がボヤけていくので、これらを総合的に判断しながら位置を探っていきましょう。

レコーダーの位置が離れた場合はメンバーが良い感じに画面に収まるようにカメラをズームさせればOK。メンバーの立ち位置は自由で、カメラに全員が写っていれば大丈夫です。ただし、ボーカルはステレオの中央から聴こえて欲しいので、スピーカーの位置に対して、常にレコーダーが中央になるようにセッティングすると聴きやすいサウンドに仕上がります。

1本のマイクで録る場合は各楽器の音量はもちろん、位置や距離を工夫するのが大切です。最初は時間がかかるとは思いますが、何度かテストすれば、コツが掴めるはずですよ。

また、せっかくステレオで録音できるので、楽器の配置にも工夫してみましょう。ボーカルやドラムは中央に、ギターやキーボードは左右に配置することで、広がりのあるサウンドになり、1つ1つの楽器の音も聴きやすくなるはずです。

「作品である」という意識

いろいろな制限がある中でクオリティの高い動画を作ることは大変かもしれません。しかし、「作品として少しでも良いものを作りたい!」と意識したり工夫することで、バンドのレベルアップや演奏に対する取り組み方にも変化が起ころうでしょう。高価な機材にこだわることなく、「作品を創る」「創意工夫する」というところが、軽音楽部の「部活動」としての意義ではないでしょうか。

最後になりましたが、せっかく良い音で撮っても聴く環境によっては良さを発揮することができません。ビデオを見返す時にはiPhoneの内蔵スピーカーではなく、イヤフォンを使ってしっかりと細部まで聴くことを忘れないでください!



▲目的に合った機材の選定とアイデアを組み合わせることで、十分にクオリティの高い演奏動画を撮影することができます

「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」と軽音楽部の接点

平成 30 年 12 月に文化庁によって策定された「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」は同年 3 月にスポーツ庁より策定された「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」に準じています。これらは近年、部活動に関しての様々な問題に対して検討されたもので、本来、部活動は教育の一環であり、社会人としてのスキルを学ぶためのものだという考え方が根底にあります。軽音楽部には、文化庁のガイドラインとの接点を多く見るすることができます。その接点のいくつかを一覧にしてみました。

特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会 副理事長 辻 伸介

文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

1 適切な運営のための体制整備

(2) 指導・運営に係る体制の構築（抜粋）

イ 学校の設置者は、各学校の生徒や教師の数、部活動指導員の配置状況や校務分担の実態等を踏まえ、部活動指導員を積極的に任用し、学校に配置する。（中略）服務（校長の監督を受けることや生徒、保護者等の信頼を損ねるような行為の禁止等）を遵守すること等に関し、任用前及び任用後の定期において研修を行う。

ウ 校長は、文化部顧問の決定に当たっては、校務全体の効率的・効果的な実施に鑑み、教師の他の校務分掌や、部活動指導員の配置状況を勘案した上で行うなど、適切な校務分掌となるよう留意するとともに、学校全体としての適切な指導、運営及び管理に係る体制の構築を図る。

カ 都道府県、学校の設置者及び校長は、教師の文化部活動への関与について、「学校における働き方改革に関する緊急対策（平成 29 年 12 月 26 日文科科学大臣決定）」及び「学校における働き方改革に関する緊急対策の策定並びに学校における業務改善及び勤務時間管理等に係る取組の徹底について（平成 30 年 2 月 9 日付け 29 文科初第 1437 号）」を踏まえ、法令に則り、業務改善及び勤務時間管理等を行う。

教師の負担軽減と外部人材の参画

軽音楽部では、他の部活動のように「レギュラーと補欠」という図式ではなく、全員がそれぞれバンドというグループに所属して活動します。もちろん、各パートごとに別れて基礎練習などを行うこともありますが、先輩バンドが後輩バンドにアドバイスをする、異学年と一緒にバンドを組むなど、軽音楽部ならではの先輩後輩の良好な関係が生まれやすく、自然と異学年の交流が盛んになります。

また、基本的に生徒の自主性・主体性が不可欠な軽音楽部においては、今後、部活動指導員をはじめ外部人材の積極的な参画が進めば、さらに教師の負担軽減につながります。顧問の指導に頼りすぎず、生徒だけでも持続可能な運営体制が確立されます。

文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

2 合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進のための取組

(1) 適切な指導の実施（抜粋）

イ 文化部活動の指導者は、（中略）過度の練習が生徒の心身に負担を与え、文化部活動以外の様々な活動に参加する機会を奪うこと等を正しく理解するとともに、生徒の芸術文化等の能力向上や、生涯を通じて芸術文化等に親しむ基礎を培うことができるよう、生徒とコミュニケーションを十分に図り、生徒がバーンアウトすることなく、技能等の向上や大会等での好成績などそれぞれの目標を達成できるよう、分野の特性等を踏まえた合理的でかつ効率的・効果的なトレーニングの積極的な導入等により、休養を適切に取りつつ、短時間で効果が得られる指導を行う。（後略）

4 生徒のニーズを踏まえた環境の整備

(1) 生徒のニーズを踏まえた文化部の設置（抜粋）

ア 校長は、学校や地域の実態に応じて、現在の文化部活動が、性別や障害の有無を問わず、生徒の多様な潜在的なニーズに必ずしも応えられていないことを踏まえ、技能等の向上や大会等での好成績以外にも、友達と楽しめる、適度な頻度で行える等、生徒が参加しやすいような多様なレベルや生徒の多様なニーズに応じた活動を行うことができる文化部を設置する。（後略）

合理的でかつ効率的・効果的な活動と生徒のニーズ

軽音楽部はバンドごとに活動するため、楽器の演奏技術向上や合奏することに重きをおきたい、ライブを行うことや大会に出場することを目標にしたい、オリジナル楽曲作成やレコーディングを行って音源制作に力を入れたい…といった、多様なニーズに応えることができます。やり方によっては、期間を設けて様々なことにチャレンジしたり、各々が自由に活動を広げることができ、部活動への過度な傾注やバーンアウトすることなく、軽音楽という文化芸術活動を続ける基礎を育みます。

また、軽音楽部に性別や障害による差別はなく、メンバー間に活動への温度差が生じたりした場合でも、チーム分けを変更すれば、部活動を継続させることも可能です。

文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

4 生徒のニーズを踏まえた環境の整備（抜粋）

(1) 生徒のニーズを踏まえた文化部の設置

イ（前略）単一の学校では特定の分野の文化部活動を設けることができない場合には、生徒の部活動参加の機会が損なわれることがないよう、複数校の生徒が拠点校の部活動に参加する等、合同部活動等の取組を推進する。また、持続可能な活動を確保するため、長期的には従来の学校単位での活動から一定規模の地域単位での活動も視野に入れた体制の構築が求められる。（後略）

4 生徒のニーズを踏まえた環境の整備（抜粋）

(2) 地域との連携等

ア 都道府県、学校の設置者及び校長は、家庭の経済状況にかかわらず、生徒が芸術文化等の活動に親しむ機会を充実する観点から、（中略）地域の人々の協力や体育館や公民館、美術館・博物館などの社会教育施設、劇場、音楽堂等の文化施設の活用や芸術文化関係団体・社会教育関係団体等の各種団体との連携、保護者の理解と協力、民間事業者の活用等による、学校と地域が共に子供を育てるという視点に立った、学校と地域が協働・融合した形での地域における持続可能な芸術文化等の活動のための環境整備を進める。

合同部活動などの取り組みの推進

軽音楽部は活動の単位がバンドという小さなグループであるため、他の部活動よりも地域での合同部活動の展開も可能です。バンド同士の交流はもちろん、互いにメンバーを入れ替えてのセッションなども比較的容易です。それは、コンダクターの指示や譜面どおりに演奏を再現することが目的ではなく、生徒自らがコード・ネームを使用したり、創作力を持って演奏することが多い軽音楽部だからできることです。他パートへアイデアを出し合ったり、合奏の構築を普段から自主的に行っているからこそ可能なことだと言えます。

また、同じ理由から、地域のお祭りや老人ホームへの慰問、公共施設での演奏会など、地域との連携が比較的容易です。機材のセッティングや片付けは大変ですが、ほとんどを電子楽器で行う軽音楽部では、場所や状況に応じた音量で演奏することが可能です。電子ドラムを使用してほぼ無音でライブを行ったり、アコースティック・ギターやカホンを使用して楽曲をイベント用にアレンジすることもできます。自らの演奏を不特定多数の観客に聴いてもらえるように努力することは、音楽を通した文化芸術活動として、とても意義のあることです。

文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

本ガイドラインは、生徒の視点に立った、学校の文化部活動改革に向けた具体の取組について示すものである。中学生及び高校生の時期は、生徒自身の興味・関心に応じて、教育課程外の学校教育活動や地域の教育活動など、生徒による自主的・自発的な活動が多様化していく段階にある。少子化や核家族化が進む中において、学校外の様々な活動に参加することは、実生活や実社会の生きた文脈の中で様々な価値や自己の生き方について考えることができる貴重な経験となり、幅広い視野に立って自らのキャリア形成を考える機会となることも期待される。また、生徒が多様な学びや経験をする場や自らの興味・関心を深く追究する機会などの充実につながるものである。

文化庁ホームページから検索できます。
<https://www.bunka.go.jp/index.html>

文化部活動ガイドライン

🔍 検索



文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

平成30年12月



軽音楽部の大会における統一審査基準（案）

愛知県高等学校軽音楽大会、高等学校軽音楽コンテスト中部大会に於いて実施中。

1. 審査の方向と基本的な考え方について

- 軽音楽部の大会は部活動の延長線上にあるため、部活動として「本番までにメンバー全員で何を積み上げてきたか」「全員で良いステージを作れたか」を主な審査の対象とする。
- 個々のテクニックや才能よりもアンサンブルを重視し、全員で同じ目標に向かっていったかという「チームワーク」や「チームプレー」を審査する。
- 将来性、個別のアクシデントや諸事情などは考慮せず、当日のステージの完成度のみで審査する。個人の楽器トラブルなども場合によっては審査の対象とする。
- 軽音楽部はバンド演奏を通じて「コミュニケーション」を学ぶ場でもあるので、バンド形態での出場を原則とする。

2. 楽曲のカテゴリーについて

- 演奏する楽曲がオリジナル楽曲なのかコピー楽曲なのかは問わない。ただし、「クリエイティビティー」が特徴である軽音楽部の大会においては、オリジナル楽曲である方が望ましい。
- コピー楽曲の場合、審査員がその楽曲を既知かどうかで評価が変わる可能性があるため、原曲との違いで評価しない。
- カバー楽曲の場合、あくまでも「アレンジ」と捉えてオリジナル楽曲とは認めない。ただし、アレンジに対するオリジナリティーやクリエイティビティーは審査の対象とする。
- オリジナル楽曲の場合、審査員の好みによって評価が変わる可能性があるため、楽曲の良し悪しで評価しない。
※ケースによっては、楽曲の音楽性や良し悪しを通常審査とは別枠で「楽曲賞」を設けることで評価することもある。

3. 審査項目について①

合奏力

その楽曲を「演奏」するために必要なことを、メンバー全員でどれだけ突き詰めて練習してきたか。また、披露できていたかを審査する。単純に個々の技術の評価するわけではない。

①テクニック

メンバー全員がその楽曲を演奏するための技術をどれだけ習得していたか。

- 個人のハイレベルなテクニックは合奏にそぐわなければ評価しない。ただし、何もしないことが良いわけではない。
- コピー楽曲の場合、原曲に忠実かどうかよりも「良い合奏」を目指していたかを評価する。
- オリジナル楽曲の場合、個々のフレーズのアイデアやセンス、オリジナリティーなどはここでは評価しない。そのフレーズを表現するための演奏技術のみで評価する。
※部活動は単に技術の向上が目的ではなく、「技術は合奏のため」という意識を育てる。
※選曲やレベルに合ったアレンジなどをメンバーで協力して考える意識を育てる。

②リズム理解

メンバー全員がその楽曲を演奏するためのリズム（テンポ、グルーブなどを含む）をどれだけ理解していたか。また共有、及び披露できていたか。

- 全員がリズムの共有をしていたかを評価する。
- 楽曲に合ったテンポで演奏し、全員でテンポ・キープができていたかを評価する。
- 原曲に忠実かどうかよりも「良い合奏」を目指していたかを評価する。
※各々がテンポ・キープ、リズム・キープをする意識を育てる。
※音楽にはリズムが伴っていないといけないという意識を育てる。
※ポピュラー・ミュージックにとって大事な「グルーブ」への意識を育てる。

③セオリー

- メンバー全員がその楽曲を演奏するための音楽的知識をどれだけ習得していたか。また共有、及び演奏できていたか。
- 個々のフレージングにおいて、キー、構成、和音、コード進行などが理解できていたか。
- コピー楽曲の場合、原曲に忠実かどうかよりもハーモニーとして成立していたかどうかを評価する。原曲が音楽理論上、あるいは聴感上、音の重ね方などがおかしい場合であっても考慮しない。
- オリジナル楽曲の場合、コード・アレンジのアイデアやセンス、個々のフレージングなどのオリジナリティーはここでは評価しない。メンバー全員の和音への理解を評価する。
※各パートのフレーズが絡み合って音楽ができているという意識を育てる。
※キー、スケール、コード、コード進行などの必要最低限な音楽的知識の必要性を育てる。

3. 審査項目について②

表現力

その楽曲を「表現」するために必要なことを、メンバー全員でどれだけ突き詰めて練習してきたか。また、披露できていたかを審査する。

①イメージ共有

メンバー全員がその楽曲の歌詞や世界観、感情、ダイナミクスをどれだけ理解し、また共有して、どれだけ独自性を出しながら演奏できていたか。また表情やステージングなどで演出し、表現できていたか。

●例え、音楽理論上は奇抜なフレーズであっても、楽曲の表現として成り立っていれば評価する。

●個性に関するオリジナリティーはオリジナル楽曲の場合もコピー楽曲の場合も、歌唱や演奏が音楽的かどうかを重視し、評価する。

●派手に動きまわることや動かないステージングなどは楽曲にそぐわなければ評価しない。楽曲のイメージに合ったステージングやパフォーマンスができていたかを評価する。

●客席に音楽や楽曲に含まれるメッセージなどを伝えようとしていたかを評価する。

●きちんと演出されていたかどうかではなく、メンバー全員が1つになってドラマを作ろうとしていたかを評価する。

※自己満足で終わらず、全員で人に何かを伝える演奏を目指す意識を育てる。

※人前で演奏するという事は楽曲を聴いてもらうためだけでなく、ステージを見てもらうことでもあるという意識を育てる。

②バランス

ステージ上でメンバー同士が連携を取りながら演奏できていたか。各パートの音量や音色、音の定位、音域などのバランスが取れていたか。

●演奏中、お互いを意識して「合わせよう」としていたか。アイコンタクト、ミスやトラブルのフォローなども評価の対象とする。

●テーマ・メロディーやソロなどの音量や音色は適切で、押し引きができていたか。

●それぞれがその楽曲の合奏に合う音作りができていて、歌を含むすべてのパートがきちんと聴こえていたか。

●チューニングが合っていたか。

※自分が全体の中の1人であり、アンサンブルの中でどう演奏すれば良いかという意識を育てる。

※音楽は「音」として全員で奏でるものであるという意識を育てる。

※楽器を「楽器」として扱い、本番に向けたメンテナンスや調整の必要性を理解させる。

4. 審査方法と賞について（例）

●審査員3名（1名は審査員長）が上記の考え方にに基づき、総合的な審査を点数によって行い賞を決定する。同点だった場合は審査員、及びコメンテーターによって協議され、最終的に審査員長が判断する。

●審査員は各バンド演奏終了後に講評し、アドバイスシートに全体的なアドバイスを記入する。コメンテーターは審査には関わらず、パートごとのアドバイスをシートに記入する。

●審査の点数は開示し、アドバイスシートは各校へ渡すことによって今後への意欲につなげる。

●出場するバンド数が多く、演奏楽曲にオリジナル楽曲とコピー楽曲が混在する場合の部門分けやオリジナル楽曲の優秀性を審査しての「楽曲賞」の授与、各パートごとの「個人賞」の授与など、ケースによってのアレンジは可能とする。

①各賞の例

グランプリ	1 バンド
準グランプリ	1 バンド
第3位	1 バンド
奨励賞	3 バンド
楽曲賞（オリジナル楽曲のみ）	1 バンド
個人賞	各 1 名
ベスト・ボーカリスト	
ベスト・ギタリスト	
ベスト・ベーシスト	
ベスト・ドラマー	
ベスト・キーボーディスト	

ベスト・プレイヤー

（上記以外の楽器演奏などで優秀な生徒がいた場合）

②楽曲賞

オリジナル楽曲において、歌詞、メロディー、コード進行、バンドアレンジ、パートアレンジなどを含め、総合的に優れていたグループに贈られる賞。

●作者個人ではなく、グループに贈るものとする。

●個人、及びバンドの演奏力や表現力は審査の対象に含まない。

③個人賞

個人のテクニックや音楽的センスが優れていた生徒へ贈る賞。

●アンサンブルを無視した身勝手な演奏などは対象外とする。

●オリジナル楽曲やカバー楽曲の場合、個性やオリジナリティーも評価の対象とする。ただし、音楽的でない場合は評価の対象としない。

④その他、演奏中止、審査対象外、失格になる場合もある。

●危険行為を行った場合。

●あきらかに演者の行動が起因となる遅延があった場合。

●誹謗中傷や暴言など、部活動にそぐわないMCや発言があった場合。

●その他、大会規定のルールを守らなかった場合。

ありそうでなかった！ 軽音楽部向け
学校名入りのギグバッグという新提案

GiGBaG

大切な楽器を衝撃から保護

3年間の部活動への耐久性

- ☆シンプルで利便性に優れたデザイン
- ☆楽器全体を包み込む、4重構造
- ☆生地とジッパーに施された防水機能
- ☆B4サイズの楽譜も楽々収納可能
- ☆長時間の持ち運びにも耐え得る軽さ
- ☆ボディーエンドを保護するパッド

ギグバッグの役割と選び方

「ギグバッグ」とは、ギターやベースを収納して持ち運ぶためのバッグのことです。昔は一律に「ギター・ケース」と言っていましたが、アタッシュ・ケースのようなハード・ケースから薄手のソフト・ケースまで、様々な仕様があります。そんな中で、手軽に肩に引っ掛けてギグ（ライブ）に出かけられるような比較的丈夫なソフト・ケースをギグバッグと呼びます。

軽音楽部に所属する皆さんは、ギターやベースを持って登校する日が多いと思うので、楽器選びと同じように、ギグバッグも様々な面を考慮して選びましょう。長い間使うことを考えると、ジッパー部分や取手の丈夫さ、内装パッドの量、防水加工の有無など、大事な楽器をしっかりと守ってくれる「ケース」としての機能がきちんと果たされているかどうかが大事です。また、毎日のように使うギグバッグは、使いやすさや「バッグ」としての収納力なども大きなポイントです。シールド・ケーブルや譜面などはもちろん、クロスや予備の弦といった備品から小型のエフェクターにいたるまで、かさばらずに収納できるポケットがあると便利です。

近年では、ギグバッグごと背負ってしまえる「リュック・タイプ」が人気です。両手がフリーになることと、ストラップ部分の丈夫さ、安定して持ち運べる、というところが理由でしょう。

ギグバッグでワンチームに

今回は、そんな機能的なギグバッグに、もう1つ軽音楽部としての「オリジナリティー（独自性）」と「ソリダリティー（連帯性）」を加えましょう！という提案です。簡単に言えば、「学

校名と部活動名」をギグバッグに明記しようということです。一笑に付す人もいるかもしれませんが、運動部では当たり前のように校名入りのバッグやケースを使っています。部活動であれば、当然のこととも言えます。

軽音楽部のギタリストとベーシスト全員が、お揃いの校名入りギグバッグを持っていたら、結束力が高まります。バンドごとの活動が主で、なかなかまとまりにくい軽音楽部が、「自分たちは同じ部活動の一員なんだ」と、ワンチームとして1つになれるのではないのでしょうか。校内、校外へ向けた大きなアピールになると思います。

学校と部活動を「背負う」

軽音楽部は、学校に所属している「部活動」です。部活動に所属せずに活動している高校生バンドとは違い、学校の許可があって初めて成立しています。まだ同好会です、という学校もあるかもしれませんが、校内で活動を認めているのであれば、形は違えども同様に「学校あつてのもの」であることに変わりはありません。練習場、機材、部室、倉庫があること、顧問の先生、先輩、指導員の方がいること、他校との合同演奏会に参加できたり、大会に出場できること…、それらはすべて部活動だからこそ可能なことです。部活動として音楽活動ができることに感謝して、軽音楽部の一員であることに誇りを持ちましょう。

校名入りギグバッグを使用して、文字通り「学校を背負う」ことで、軽音楽部を学校の内外へ向けて大きくアピールできます。外部の高校生バンドとははっきりと区別をつける意味でも大きな効果があります。ぜひ、校名入りギグバッグの導入を検討してみてください！



GiGBaGの主な仕様

- ボディー表面：撥水加工、生地裏：防水コーティング加工
- ファスナー部：止水ジッパー
- サイド・クッション：25mm 厚
- トップ&バック：マルチレイヤー・クッション（30mm 厚）
- ボトム（内部）：プロテクト生地（1,680 デニール）
- ボトム（外部）：ラバー・パッド
- ボディーエンド（内部）：リムーバブルパッド（30mm 厚）
- カラー：ブラック

※変形ギターなど、一部のモデルは収納することができません
※ケース本体は星野楽器販売株式会社の商品です



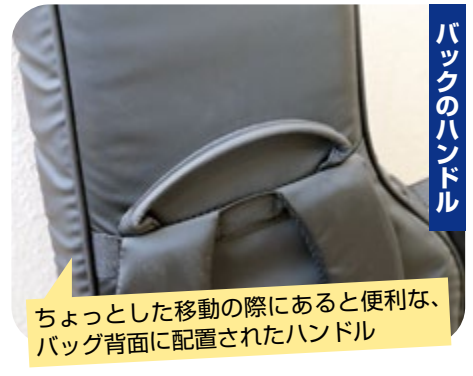
止水ジッパー

水の侵入を防ぐ「止水ジッパー」を採用。雨の日でも安心の生活防水設計



ボトムガード

床置きの際の汚れや摩擦、濡れなどから大切な楽器を守るボトムガードを装備



バックのハンドル

ちょっとした移動の際にあると便利な、バッグ背面に配置されたハンドル



防水加工

生地表には撥水加工を、生地裏には防水加工済みのポリエステル地を使用



横置可能な足ゴム

横置きもできるようにプラ脚を装備。シンプル＆利便性の良いデザインを採用



エンドピン保護パッド

最も負荷がかかるボディーエンド部には取り外しが可能なパッドを2つ装備



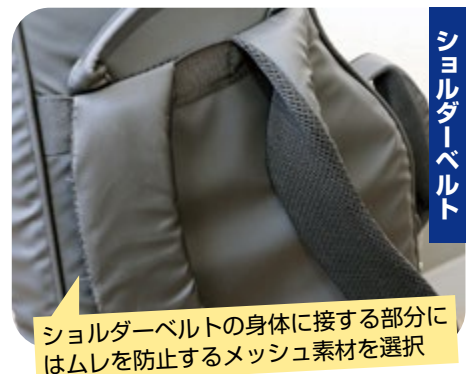
クッション

自由に着脱ができるネックレストを装備。形状に応じた位置に取付が可能



傷つき防止の補強生地

バッグの内装生地の磨耗や傷つきを防ぐため、補強生地を縫い付けてガード



ショルダーベルト

ショルダーベルトの身体に接する部分にはムレを防止するメッシュ素材を選択



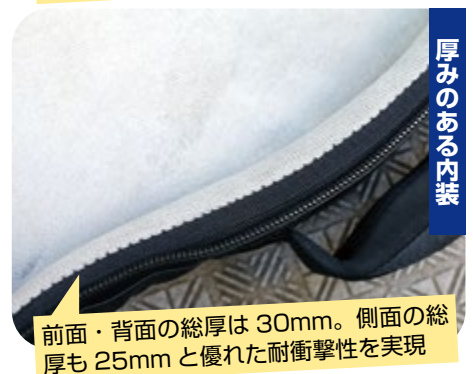
サブポケット

B4 寸法の楽譜も余裕で収納できる大きなポケット。様々なものを収納可能



メインのハンドル

安定感があり、グリップ性に富んだ、握りやすい形状のハンドルを採用



厚みのある内装

前面・背面の総厚は 30mm。側面の総厚も 25mm と優れた耐衝撃性を実現

本体価格		名入代金	
ギター用ケース	10,000 円	版代	7,000 円 (次回以降も使えます)
ベース用ケース	12,000 円	4本	10,000 円 (単価 2,500 円)
書体	ゴシック体、丸ゴシック体、明朝体、他	8本	13,600 円 (単価 1,700 円)
印刷色	白 (他の色の場合は応相談)	12本	18,000 円 (単価 1,500 円)
計算例) ギター・ケース4本の場合			
ケース代 40,000 円 + 版代 7,000 円 + 印刷代 10,000 円 = 57,000 円...単価 14,250 円			
版下は次回以降も使えるので部費負担として、ケース本体と印刷代を個人負担にすると、1人あたりの単価は 12,500 円となります。			
※詳しくはお問い合わせください。全国学校軽音楽部協会 045-913-0901 info@keionkyo.org			



フルオープン

ギターやベースをバッグから取り出しやすいよう、前面はフルオープンが可能

※表記価格はすべて税別です



写真でわかる 知っておくべき 軽音楽部員の常識

～ギタリスト編～



ギタリストにとって、ギターは相棒です。倒れたり、踏んでしまったりすると大変です。他にも、ベストなコンディションで演奏するためにはストラップやシールド・ケーブルの長さ、ピックの持ち方にも気を使い、弦が錆びたり、ブリッジのガリが出ないようにメンテナンスにも注意を払いましょう。自分のギターを愛せば、腕前も自然に上がるはずです。

大切な楽器が倒れる



立てかけておくと倒れてしまい、傷や破損の原因となる

これはあり得ません！



言語道断。間違っただけで踏んだり、物を落としたりはダメ

楽器を大切にしよう



演奏し終わったら、必ずギター・スタンドに置くこと

抜け落ちないように



演奏中にケーブルが抜けないようにストラップに付ける

弦がサビないように



演奏後は乾いた布やクロスで弦を軽く拭き、手汗を取る

ガリが起きないように



ブリッジの金属部分を拭き、ガリの原因となる手汗を取る

これでは力が入らない



優しくつまんだ状態では弦を弾くことができません

まだまだ力が入らない



握り方は良いですが、ピックが少し出過ぎています

短めに持って弦を弾く



これくらいだと指先に力が入り、しっかり弾けます

軽音楽部の 楽器や機材は 軽音協に ご相談ください。

www.keionkyo.shop



※利益は軽音楽部の支援活動に還元しています

軽音協のオール電化計画



**バンド練習も個人練習も、外に音を出さない。
新しい時代の軽音楽部の練習環境と機材。**

校内外への騒音問題、練習時間の不足、練習内容の改善などを考慮すると、校内の部活動としての軽音楽部では、最新のデジタル楽器や機材を活用することで、多くの課題が解決すると思います。

サイレント・スタジオ

電子ドラムとデジタル・ミキサーを組み合わせることで、音を外に出さずにバンド練習をすることができます。詳しくは紹介動画をご覧ください。

お見
積り
例

ZOOM / L-12 + Roland / TD-1DMK サイレント・スタジオ・システム セット A

軽音協ショップ価格 **161,000 円 (税別)**

月額リース料 **4,000 円 (税別)** より

※リースの適用下限額は 200,000 円 (税別) です

紹介映像



個人練習もサイレント。マルチ・エフェクターで練習が変わる！



ZOOM / G1 FOUR (ギター用)

Fender、Marshall、Orange といったジャンルや年代を問わずにギタリストを魅了し続ける 13 種類のアンプ・モデルと、あらゆるジャンルに対応する 60 種類のエフェクトを搭載しています。

軽音協ショップ価格 **7,380 円 (税別)**



ZOOM / B1 FOUR (ベース用)

Fender や Ampeg などの定番アンプ・モデル 9 種類と、ベースの音作りに欠かせない 60 種類のエフェクトを搭載したベーシスト必見のマルチ・エフェクターです。

軽音協ショップ価格 **7,380 円 (税別)**

紹介映像



特定非営利活動法人 (NPO 法人)

全国学校軽音楽部協会

URL : www.keionkyo.shop TEL : 045-913-0901 FAX : 045-913-1900



その他…何でもご相談ください。

楽器や機材の導入は「リース」がオススメ！

軽音協 × シャープファイナンス

① 少ない資金で希望の
楽器・機材を導入できる

② リース物件は
動産総合保険に加入済み

●十分な予算がなくても、月々の支払いで無理なく導入できます。 ●楽器や機材の選定からメンテナンスまで、安心のサポート体制。(故障時の修理と代替機の保証も含まれます)